昭和21年12月12日第3種郵便物認可★昭和24年3月28日運輸省特別扱承認雑誌第366号★昭和24年9月1日発行★第4巻第6号★昭和24年8月25日印刷★毎月1回発行

スタア

9月号

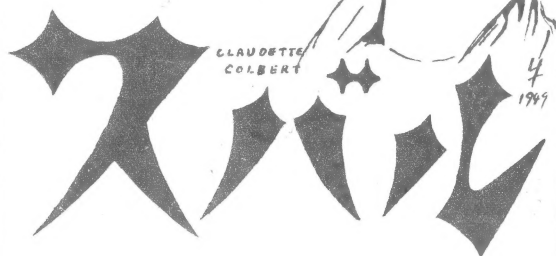
Star

Lana Turner
—M.G.M.—

HIT SONGS SOUVENIR
懐しの映画主題歌集
昔の名画が瞼の裏に
浮かんでくる………
主題歌珠玉集！
☆カリオカ 空中レビュー時代
☆ラ・ボムバ 一九三七年の大放送
☆夜と昼 コンチネンタル
☆頬すり寄せて トップ・ハット
☆可愛いアイルランド娘 恋の走馬燈
☆ヴィリア メリイ・ウィドウ
☆桑港 桑港
☆淋しい道 ショオ・ボート
☆インデアンの恋歌 ローズ・マリイ
☆今年のキッス 陽氣な街
☆巴里祭 巴里祭
☆唯一度の賜物 会議は踊る
レコード番号A一一一五―一一二〇
詮衡委員 南部圭之助・野口久光・双葉十三郎・淀川長治・岡俊雄・轟夕起子
最寄りの特約店でお求め下さい。
HIS MASTER'S VOICE
ビクターレコード

Zotos
BEAUTY PREPARATIONS
近代香粧品化学の最高を往く！
ゾートス化粧品
化粧液・美髪料・美肌料・水白粉
粉白粉・頬紅・口紅・爪紅
GINZA SHISEIDO TOKYO

火は有難いもの
恐いもの
MATCH
同和火災海上
社長・岡崎眞一

輸出向製品と
同じ製品です
Subaru
LIPSTICK
CLAUDETTE COLBERT
スバル
七色のルビー
口紅
スバル香粧品株式会社

ナベラ――"北ホテル"より――

STA

September

スタア・九月号目次

社長 小川朋久
編集 双葉十三郎 南俊子
岡俊雄 進行 岡部等

今月の推薦 Picture of the Month

ものである。

時代は一九〇六年、背景はパリのある映画撮影所である。一九〇六年といえば映画がようやく事業としての形態をおびてきた頃であり、もちろん現在のような堂々たる近代産業の一部門としての規模をもつている時代ではない。グラス・スティジのなかに安直なる書割や背景をこしらえて、据えつばなしのキャメラで短い芝居をとつていた頃のこと。映画館も見世物同樣、呼びこみ人が道ゆく人に叫んでいたという時代である。

霙まじりのうすら寒いような日、人通りもまばらだが近くの街角からは樂隊の音もきこえるのもなにかそこはかない感がある。ファースト・シインはその霙にぬれて光る鋪道のフェイド・インにはじまる。外套を羽織り傘をさした恰幅のよい男がとうりすぎるとキャメラはその男を追つて移動をはじめる。彼は街角の映画館を見あげ、うなずくような顔でなかにはいつた。カタカタという音（なんというなつかしい音であろうか）をたてる手まわしの映寫機からは古風なお芝居がスクリィンに映され、ピアノ伴奏で辯士が大車輪の熱辯をふるつている。靜かな映画館のなかだが建物は不完全だとみえて、雨漏りがするのでお客のなかには傘をさしているものもあるというのどかさである。

——というような書き方をしていては、何枚あつても足りないかから筋だけ追うことにするが、この映画館に入つていつた男がこの映画の主人公、モウリス・シュヴァリエ扮する映画監督エミィルである。（このファースト・シインはゆるいテムポで運ばれノスタルジックな雰圍氣がたちこめている）

さて、このプロロォグのあと、エミィル監督の撮影所出勤で本筋にはいつてゆく。彼は映画監督になる前には藝人仲間でかなり顔のうれた男であり、ことに女にかけての腕前は大したもので、初老の域にはいりかけたという今でも、その道には絶對の自信をもつている。撮影所にはエミィルの助手兼俳優のジャック（フランソア・ペリエ）という青年がいた。なかなかの好青年なのだが、どうも戀愛道にかけてはからつきし初心で、先生のエミィルには見ていられないのである。ジャックは優柔不斷のため、戀人のリュセット（ダニィ・ロバン）はパトロンの許に走つてしまつた。見かねたエミィルは短期現役の勤務を果すために入隊するジャックに戀の秘術を傳授したのである。

その頃、エミィルは舊友の舞臺藝人セレスタン（ロオラン・アルモンタル）が旅興行に出かけることになつたので女優志願の娘マドレェヌ（マルセル・デリアン）の面倒をみてほしいと頼まれる。マドレェヌは楚々とした典雅な娘で、エミィルはすつかり氣にいつてしまう。ことに亡きマドレェヌの母親はエミィルの嘗ての愛人の一人であつたので、彼は昔の彼女の面影をマドレェヌのみめかたちのなかに見出して懷舊の情も一入であつたわけである。女性には親切を信條とするエミィルは、仕事にも散歩にもなにをおいてもマドレェヌの氣に入るようにとつとめた。

一方、ジャックは街でとある美しい娘をみつけ、この時こそエミィルの奥儀を試みる絶好の機會とばかりに勇氣を鼓し、首尾よく近づきになつた。そして、休暇で撮影所に行つた時この旨を先生に報告すると、エミィルは我事のように喜び第二課の手ほどきをする。二人ともお互にマドレェヌという同じ娘に夢中になつていることはさらさら氣づかなかつた。

現役を終つて撮影所に歸つたジャックは、ここにマドレェヌがいるのを發見して狂喜するが、意外にも彼女がエミィルのお氣に入りと知つてがつかりしてしまう。マドレェヌはエミィルよりも若いジャックの方がすきになつた。今度は立場をかえて、彼女がジャックを積極的に追いかけはじめる。ジャックはそんなことをしてはエミィルに申譯ないと逃げまわるほどである。

さりとはつゆ知らぬエミィルは新作の主役にマドレェヌとジャックを配した。結局これが二人をつよく結びつかせることになつたことはいうまでもない。戀には若い者の方がつよい——エミィルはそうさとつたわけであるが、その新作を上映する館で、彼はある婦人と近ずきになる機會を得て、我まだ老いずの自信を得る。（この映画館がファースト・シインと同じところであることは勿論、クレェル得意のリフレインの型式がここにもみられる）

＊＊

クレェルがどういう意圖でこういう他愛もないストオリイをとりあげたのかということについては詳かにしないが、彼の作品で筋が重要でないことは前にもいつたとうりであり、むしろ久びさのフランス映画にもどつて大らかな氣もちに映画製作をたのしもうとした

ダニィ・ロバン（リュセット）

シュヴァリエとフランソワ・ペリエ（ジヤツク）

シュヴァリエ（エミィル）とマルセル・デリアン（マドレエヌ）

沈默は黄金

Le Silence est d'Or

岡　俊　雄

待つこと久しかりし「最後の億萬長者」以來、十四年ぶりのルネ・クレエルのフランス映画である。一九三四年に「億萬長者」をつくつたのち、アレグザンダア・コルダに招かれて「幽靈西へ行く」と「ニュウスを銜く」の二作を發表し、再びパリに戻つて「清純の氣」の製作にかかつたが、これは大戰のために中止し、クレエルは渡米した。そして四一年から四五年にかけて「焰の女」ほか四本のアメリカ映画をハリウッドで完成して、四六年にフランスにもどり、パテ・シネマの在佛資本によりRKOとの共同製作として一九四七年、「沈默は黄金」を製作したのである。

この映画のスタッフはつぎのとおりである。原作・脚色・監督ルネ・クレエル、撮影アルマン・ティラアル、音樂ジョルジュ・ヴァン・パリス、裝置レオン・バサック、衣裳クリスチャン・ディオール。

＊＊

「沈默は黄金」という題名からクレエルがいかなる奇手をみせているかという期待をもつひとがおおいであろう。元來、クレエルの作風は、一つの「枠」にはめこんでみることのできない性質のものである。トオキイ以後「巴里の屋根の下」から「炎の女」に至るまで（「ニュウスを銜く」は見ていないから除くとして）、どの作品をみても單純なストオリイのうえに、豊かなクレエルのファンテジイや映画的なイマジネイションが展開してゆくのであつて、本質的に映画をメディムとする感性の作家である。「自由を我等に」や「最後の億萬長者」のような「意味をもつている」と考えられる作品においても、そのことはいえるのである。クレエルの作品を文字で注解しようとする者を困惑させる一ばん大きな理由は、彼がフィルムのイメエジを通じてのみ出せる「美」や「サンチマン」を追求する藝術家であり、その本質は到底言葉におきかえることのできないものであるからだ。すぐれた繪画や音樂が、どんな詳細な注釋をもつても、それを感じとれない人には理解させ得ないのと同じ理由である。クレエルの作品はまつたくユニイクなものなのだ。

「沈默は黄金」はこれまでのクレエルの作品を見たものにとつていささかも異質のものではない。仔細にみれば技法のうえにも變化もあるようだが、それは餘裕があればふれることにしよう。

ストオリイの單純なことはいうまでもないが、題材が風がわりな

それをもとでに、まだ生れたばかりの赤ん坊を、將來讀み書きのできる立派な青年にしたてようと決心し、それをよろこんだ。だが、このおもいがけない天のおくりものを、眞珠商人（フェルナンド・ワグナア）がただでおくはずがない。夫婦は、そのため、しまいには、自分たちの部落にいたたまれなくなり、ひそかにそこをにげだすのだが、商人は、必死になってそのあとをおう。沼地をぬけ、沙漠をこえ、二人はメキシコ・シティをさしてにげる。ついに商人においつかれ、あぶないというところまできた。そこを、キノの最後の反撃によって、夫婦はたすかったのだが、二人の希望のまとであった赤ん坊は、そのとき息をひきとっていたのである。

　スタインベックが、メキシコ映画を知っていて、このストウリイを提供したのかどうか知らないが、この物語は、不斷の彼の小説よりも、さらに「神話」的であるということができる。原始的本能的感情は、アメリカ西海岸の住民たちよりも、メキシコ原住民のあいだにあった方がつよいことは、スタインベックも知っていたにちがいないし、彼の文學の「場」をそこにおくことによって、メキシコ的風物がめずらしいよりもなによりも、彼の文學の本質の一面が、メキシコ的に發展させられる豫想をもっていたのではあるまいかと、ぼくは想像する。すくなくとも、スタインベックは、メキシコの藝術家の考えかたに、理解と共感をもっていたと信じられる。それゆえ、この映画が、スタインベック的な要素を多分にもちながら、メキシコ流に變奏され、かつ、かなり別個の印象をひとにあたえたとしても、そうおどろきはしなかったろう。

手法と内容について

　この映画を見たものは、すぐにこれが、アメリカ映画やフランス映画、イギリス映画などと、かなりちがった手法をもっていることに、氣がつくだろう。それはショット（画面）内の人物、自然物の配置、すなわち畫面構成と、それをうつすキャメラの角度の特異な點で、もっとも目だち、つぎに、アメリカ映画流のティネイ・コンセツなショットのつなぎかた——モンタアジュ（編集）を主とした話術——にくらべて、それが非常にあらけづりで突發的であることとに、すぐに氣づくことともわれる。

　さらに、むかしエイゼンシュテインの「メキシコの嵐」を見たものは、いまあげた特徴とおなじものを、そこに見いだすことは必定である。ぼくは、開卷二三ショットを見て、おもわず「エイゼンシュテインだな」とひとりごちたものである。二十年もまえの「メキシコの嵐」が、どうしてここに復活しているのであろうか。いいかえれば、一九二〇年代のソヴエト映画の影響が、どうしてここにあるのであろうか。

　エイゼンシュテインの映画が、それ以來、どのような評判をメキシコでえているか、ぼくは知っていないが、メキシコが、かなりの程度にソヴエト流の政策を實行しようとしていた國家であったことは、ぼくも記憶している。特に反宗教運動がどんなにさかんであったかは、グレアム・グリインの小説「力と榮光」をよんでもあきらかである。したがって、一九二〇年代（現在のではない）のソヴエト藝術のメキシコ文化に對する影響は相當根づよいものであるとおもう。ディエゴ・リヴェラの繪畫も、やはりこの傾向に屬する。

　革命が神話的根源をもつことは、メキシコのように文化が一般化されていない國では、いたって自然である。事實、メキシコ文學の傑作といわれるアスエラの「どん底の人人」、グスマンの「鷲と蛇」は、ともにメキシコ名物の革命をとりあつかい、リアリズム的手法でありながら、神話的、敍事詩的な印象をひとにあたえる小説であった。

　こうしてつくられた神話的精神狀態が、まえにいった様式的な構圖、突發的なモンタアジュの基礎をなすものなのである。（という意味は、この姿が、革命的な觀念をもっているというのではない）現實は、そのような表現の手段によらなければ、うごかせないものであるからだ。様式的なうつくしさが、現實の實寫である「うごく寫眞」を、神話的フンイキにたかめるのである。「眞珠」がひどく「藝術的」であるのは、普通考えられるメキシコ人の生活と、非常にかけはなれているもののようにとられるかも知れないが、作者がメキシコの藝術家であるかぎり、そうしないではいられないだろうし、それが神話的効果にみちている點で（すなわち描寫的、説明的でない點で）、原始的、本能的感情にアピイルするものであるから、想像以上に一般的に鑑賞されもしようと推察される。

　赤ん坊がサソリにさされるところを夫婦がおどろいて見る小屋の中、おおきな眞珠をとる海の場面、お祭さわぎの歌、おどり、眞珠商人の手下がキノを酒場で誘惑するあたり、フアナが呪の眞珠を海にすてようとするところ、せっぱつまっての夫婦の逃避行——晝なおくらい森林の溜池、沙漠のような草原、最後の岩山——それをおう眞珠商人との鬪爭、それらのあらけずりな力づよい表現はすべて、リクツぬきの本能的な生活感情を、様式的な藝術感覺によって調伏し、だれでもが直觀しうる作品内容とした結果なのであった。

　その場合印象が、つよさと同時にくらさをもつのは、おおきくいえば、メキシコがまだまだデモクラティックな文明國でない當然の運命のようにもおもわれる。これがスタインベックの文學とこの映画とをひきはなしたもとである。

製作スタッフと俳優について

　はじめて見たメキシコ映画なので、スタッフの画面について、性急にとやかくということはいたって危險だが、監督者エミリオ・フエルナンデスが、世界的にも一流であり、メキシコの藝術家として、國民的なすぐれた特質をもっていることは、前述したところでもあきらかであろう。

　撮影者のガブリエル・フィゲロアに對しては、ヴェネツィア映画祭の授賞がすでに折紙をつけている。こんなうつくしい撮影は、最近見たことがない。主演者のペドロ・アルメンダリスとマリア・エレナ・マルケスは、作品の手法、內容に一致した全身的な演技を見せ、特にマスクのよさはすばらしいものである。マスクに重點をおいた演出が、さらにそれを強調していた。

　この映画一つによっても、メキシコ映画は、世界の映画界に登場する權利をうるものと判斷される。今後おおいにメキシコ映画が見たいものだとおもう。

　以上、日本での最初の公開をいわって、いささか興奮し、ウルサイことを書きすぎたようである。その點は讀者のかたがたのおゆるしをねがう次第。コワがらずにぜひ見てくださいと、親愛なるメヒカアノスにかわっておねがいします。（この映画は英語版だが、スペイン語で見たかった。）

のではないかと僕には考えられる。現代文明の象徴ともいうべき映画の世界を扱いながら、これをきわめて原始的な形態をもつていた初期の時代にとりあげたことは、彼自身が呼吸する映画の世界に對する一種のパロディであろう。また、クレェルの作風自體に多分に存在する回顧趣味の現れであるともみられる。また、モウリス・シュヴァリエという類い稀な個性を思うさま用いて、多分に皮肉な結末をみせたこと——そういう狙いを思うと、これは才人クレェルの氣樂な戯作という感がふかく感じられる。つくる方も、觀る方も味をたのしむだけのものである。理窟をつけるのは無意味である。その點で、これもやはりユニイクな作品であるといわねばならない。

シュヴァリエは歌手としての偉大な一面がここではすつかり殺されているが、その反面今までにみられなかつた、俳優としての圓熟した境地をみせている。ほかの俳優も、總じてクレエル好みにうまく使われており、なんともいえぬとぼけた味が出ている。特に會計係のパウル・オリヴィエ、道具方のレイモン・コルディ、キャメラマンのガストン・モドォ等、昔ながらのクレエル映画のおなじみが生彩をみせているのは、クレエル・ファンにとつては涙の出るほどうれしい。

細いテクニックでは、窓の使い方や、音樂によるカット・バック等に味が一ばんよく出ているが、總體にテムポがのびており、シィンの接續をほとんどフェイドで行つていることが著しい特徴である。このため、往昔の作品にくらべてリズムに乏しく、流麗さがない。好意的にみれば一九〇六年頃の映画のもつ画面の固定した原始性をここにつかつてみたのかもしれない。細部のギャグは爆笑をそそらないにしても、駘蕩たるユウモアにみちている。ことに撮影所風景は特に興味あるものを多くもつている。

アルマン・ティラアルのキャメラ・ワアクはすぐれたものだが、この戯作的なタッチに對しレアリスティクすぎたと思う。ジョルジュ・ペリナアルのごとき、ハイ・キイのもつ開放感がほしいところであつた。

眞珠

The Pearl

飯島正

メキシコおよびメキシコ映画のことを

「眞珠」はぼくたちがはじめて見るメキシコ映画である。ぼくはメキシコ映画についてほとんどなにも知っていないが、スペイン語系諸國のなかでは、メキシコが有数の映画國であること（アルジェンティンについで第二位）、アメリカおよびフランスで上映されるスペイン語映画のなかでは、數量的にも質的にも第一位であること、ヨオロッパでもよおされる映画コンクウルで賞をとった數はメキシコ映画が第一であること、ぐらいは承知していた。

メキシコ映画ばかりでなく、現在のメキシコ文化そのものについての知識も、いたって貧弱である。藝術の方面についていえば、ディエゴ・リヴェラの繪の寫眞版をよく見かけたり、マリアノ・アスエラ（「どん底の人人」）、マルティン・ルイス・グスマン（「鷲と蛇」）などの小説を讀んでいるにすぎない。

メキシコの歴史については、中學でおそわったことぐらいしか知らないし、國民の人種的なりたちについては、多數の原住民と少數の白人のほかに、その混血兒がおおいこと（全人口の約半分）程度の知識である。アメリカ映画にあらわれたメキシコ人は、ハリウッド製メキシカンであるから問題にならない。むしろS・M・エイゼンシュテインが無聲映画末期につくった「メキシコの嵐」の方が、メキシコの眞實をつたえていたとおもう。

以上のようなわけで、「眞珠」に對するぼくの考えは、まずまずゾウのシッポでゾウを判斷するようなものだと、まえもって御承知ねがいたい。

原作と映画に關して

「眞珠」の原作は、アメリカの小說家ジョン・スタインベックの中篇小說である。作者はまた脚色（スタインベック、エミリオ・フェルナンデス、ジャック・ワグナア）にも參加している。

スタインベックの初期の小說は、大部分が西部海岸地方の住民を主人公にしている。そして、そのおおくは原始的な生活感情をもつたひとたちである。えがきかたは、リアリズムとされているが、ぼくはかならずしもそうはおもわない。ヘミングウェイもそうだが、むしろ「神話」的傾向が、印象としてはのこるのである。その意味で、この映画の筋も、スタインベックらしい特徴はもっている。

メキシコの西海岸（いつものスタインベックの舞臺と地つづきだ）に、眞珠取りで生計を立てている原住民（ほとんど混血らしいが）の部落があった。キノ（ペドロ・アルメンダリス）とファナ（マリア・エレナ・マルケス）は、類のないおおきな眞珠をとったので、

一九三一年のことで、當時ハリウッドはサイレントからトオキイへの切り換えで、演技もうまく臺詞も確かな女優を求めて、ブロオドウェイから盛んに移入した頃だが、なおその上に歌もうたえるという三拍子揃つた彼女に白羽の矢の立つたのは當然だつたかも知れない。映画界入り處女作品はそれほどでもなかつたが、第二作の「シマロン」で不撓不屈の開拓者の妻に扮して、豫想外のドラマティックな演技で世間をアッと驚かせた。翌三二年にこんどはさらに意表に出て「裏街」で悲劇女優としての才能を開疎した。これはアメリカにはめずらしいお妾映画で、日蔭の生活のまま年老いてゆく女の哀愁がしみじみと現われている名作であつた。本來の歌手としての腕前を存分に見せる作品は、少し遅れて「ロバアタ」（三五年）・「ショウ・ボオト」（三六年）がある。前者ではアステア＝ロジャアスの名舞踊コムビを相手に、後者ではヘレン・モオガン、ポオル・ロブスンなどの練達のミュウジカル俳優を相手に、一歩も讓らない本領を發揮した。ドラマ、悲劇、音樂物、それに加えて三十年代の後半に入つてからは、喜劇にも巧みな演技を見せるようになつた。戰前ケイリイ・グラントと共演の「新婚道中記」はしゃれた都會喜劇の一典型を示す佳作で、以後「たくましき男」「花嫁凱旋」としばらく喜劇が續いている。まことに行くとして可ならざるはないオオル・ラウンドの才能の持主で、ハリウッドに女優多しといえども、こんなに藝の幅の廣いひとはまれで、それがアイリイン・ダンの長所であり、また一つの役を突きつめてゆく餘裕のないという意味では弱點でもあると言えるかも知れない。

アイリイ

ハリウッドのファアスト・レエディ

私生活では一九二七年ニュウヨオクの齒科醫フランシス・デニス・グリフィンと結婚して、夫婦仲は至つてよい。性格もやさしく人づきあいがよく、撮影の際の仕事熱心と協力的なことは有名である。戰時中は屢々軍の病院を慰問して、GIたちから「ハイヤ・パル！」と口笛を吹かれて親しまれた。彼女には確かにそういう親しみやすい所がある。

私生活のりつぱさ、映画女優としての經歷と貫錄、どちらも一點非の打ち所がないことから、アイリイン・ダンはいまやノオマ・シアラア、グリイア・ガアスンに次いで、三代目のハリウッドのファアスト・レエディに公認されている。アメリカ映画界を背負つて立つ代表女優になつた譯である。

趣味は少々本職がまじるが作曲、それから庭いじり、ゴルフ、バドミントン、お料理。見るものでは野球と蹴球の熱烈なファン、讀むものではショウとバリイの戲曲。香水と靴を熱心に蒐集している。家庭的で高尚で知的で、かといつてそれほど地味ではなく、陽氣でちよっとはで好みの所もあるという、彼女の映画そのままの性格がこの趣味のなかによく現われている。

五呎四吋、一一五封度、髮はブルネット、眼はブルウ・グレイ。子供はなく、メリイ・フランシスという養女がいる。經濟的才能も豐かで、いろんな事業に投資し、ハリウッドの女優中でも金持の一人に數えられている。

クラシックな美しさ

アイリイン・ダンの美しさは、クラシックな美しさである。美人の標準がめまぐるしく變つたアプレ・ゲエルの今日このごろでは、彼女の美しさはアップ・トゥ・デエトの美しさでないだけに、案外理解者がすくないかも知れない。

清楚な美しさを持つオオソドックスの美人女優は、アメリカ映画からだんだんとなくなつてしまつた。三十年代にはそういう女優がたくさんいて、たとえばノオマ・シァラアだとか、アン・ハアディングだとか、どちらかといえばクラシック好みの僕のようなファンのお氣に入りの品のいい麗人が揃つていたのだが、いまではどうやらアイリイン・ダンぐらいしか殘つていない有様になつた。しかし、戰後の今日も、戰前の昔と變らず、依然ハリウッドの中心女優のひとりとして、その健在ぶりを示していることは、大いに心强い。

アイリイン・ダンは、おそらく最近出た「ママの想い出」のママで、大方のファン諸兄に强い、そして好もしい印象を與えたのではなかろうか。四人の子供を抱え、大工の夫のきまりきつた收入で上手に家計を切り廻して、貧しいながらも楽しい團らんを築き上げる、姉妹の苦情もいやな顔をせずに親切に聞いてやる、一族の長として怖れられている大伯父も一目おいて彼女にだけは何ごとによらず相談をかける、そういうやさしく勝氣で賢明なママをアイリイン・ダンは、きわめて控え目な演技で、ああいうママならいいなあ、とほれこませるほど、上手にやつてのけた。こんな家庭物のお母さん役をアイリイン・ダンがやつたことは始めてで「ママの想い出」は彼女の最も新しい作品に屬するものだから、近頃ではおいおい新境地の開拓にかかつたのではないかと察せられる。

「ママの想い出」の前の作品は「父との生活」、これはクラアレンス・デイの有名な小説を名プロデュウサア、ハワアド・リンゼイ、ラッセル・クラウズが戯曲化して七年間續演というブロオドウェイ始まつて以來の長期公演レコオドを打ち立てた劃期的な芝居を映画化したもので、やはり家庭物でアイリイン・ダンはウィリアム・パウエルのお父さんに對してお母さんを演じている。「父との生活」の前が、公開濟の「アンナとシャム王」で、これはお母さん役ではないが、シャム王室の家庭教師。戰後のアイリイン・ダンの作品は、だんだん戀だの愛だのの艶つぽいお色氣が拔けて來たが、それだけ女優としての貫錄が一段上つたように見えるのは、僕だけのひとり合點だろうか。

ごく最近封切られた「戀愛十字路」を見ると、これは一九四一年製作という相當お古いものだが、それでももう生一本な戀愛ロマンスなぞは無理だという氣がする。一九〇四年七月一四日生れという戸籍を拝見し、二十年に近い映画界のキャリアをかえりみれば、そういつまでもラヴ・ロマンスばかりやつていられないと考えるのも道理である。

「ママの想い出」も、「アンナとシャム王」も、未輸入の色彩映画「父との生活」も、みな現代の話ではない。日本で言えば、明治大正以前の話ばかりだが、アイリイン・ダンのクラシックな美しさは、お母さん役と相まつて、そういう時代の雰圍氣のなかにいかにもピッタリとはまりこんでいるのである。

幅の廣い藝

アイリイン・ダンの故郷は、競馬と煙草で名高いケンタッキイ州のルイスヴィル市である。同地のロレッタ・アカデミイを卒業後、もともと音樂が好きで聲がよかつたので、將來大歌手を目指して、シカゴに出、同地の音樂學校を卒業した。一九二六年のことである。彼女の歌手志望は本格的なオペラで、音樂學校卒業後、さつそくニュウ・ヨオクに出てメトロポリタン歌劇場の試驗を受けた。メトロポリタン歌劇場は、世界でも有數なオペラの檜舞臺で、指折りの名歌手がずらりと顔を並べる所、ここで歌えればともかくオペラ歌手として一人前になれるという登龍門だが、アイリイン・ダンは不幸にしてその試驗に落つこちた。聲は良いが、經驗がなく、年が若すぎ、身體が細すぎるということがその理由だつたらしい。「戀愛十字路」の主人公が田舍の町の合唱隊の歌手からニュウ・ヨオクに飛び出して、メトロポリタンの歌手試驗に不合格になるが、そのへんの話はアイリイン・ダンの半生から借りて來たものらしく、彼女の素性を知つていると、あの映画を見ながら知らず知らずのうちにほほ笑ましくなつて來る。

しかし、希望のオペラ歌手になれなかつたことは、アイリイン・ダン自身にとつても、はたまたファンのわれわれにとつても、かえつてたいへん幸わせなことだつた。かりに試驗にパスしてオペラ歌手になつたとしても、この世界にははるかにうわ手が幾人も控えているのだから、到底今日映画女優としてのアイリイン・ダンが保持している名聲の十分の一も得られなかつたかも知れない。その上「ママの想い出」のママも見ることが出來ない譯だから、メトロポリタン入りの失敗は今からみれば彼女もわれわれも感謝しなければならない。

アイリイン・ダンの聲は綺麗なソプラノだが、映画で聞いても判るように、あまりヴォリュウムがない。五十人のオオケストラの伴奏を壓倒しなければならないオペラには、どちらかと言えば不向きで、むしろこじんまりとしたオペレッタやミュウジカル・プレイの方がふさわしい。そこで彼女は機敏にミュウジカルに轉向した。

ミュウジカルの舞臺で當時この方面の大立物であつたジイグフェルドに發見されたのがそもそもアイリイン・ダンの運の開ける始まりで、いきなり「アイリイン」の主役に拔擢され、「ロリポップス」「スウィイトハート・タイム」「ザ・シティ・チャップ」と立て續けに主役を演じたが、「ショウ・ボオト」のマグノリアの大ヒットで、彼女の名前は第一線に大きく浮び出した。「ショウ・ボオト」はエドナア・ファアバアの名作を基にして、ミュウジカルの大家カーン＝ハムマアシュタイン二世のコンビが作曲作詞したアメリカ現代音樂劇中の最大傑作の一つに數えられるものである。この成功がハリウッドの食指を動かして、アイリイン・ダンの映画界入りとなる。

Star of the Month

ン・ダンのプロフイル

上野　一郎

ニュウ・フェイスを使うとすれば、特別の費用を出さなくてもすむし、おまけにニュウ・フェイスを賣り出すいいチャンスにもなるし、俳優を育てる準備費も大變節約出來る。

こういうわけで、過去一年間に契約された新人は各れも〈ダンスの經驗者〉が殆んど占める様な結果になつた。特別の、優れた〈劇經驗〉を持つた場合をのぞき、そして、ケイリイ・グラントが推選したその相手役ベッシイ・ドレイクの様な、所謂シンデレラ物語をのぞいては――。

それだから、現在のハリウッドのニュウ・フェイスの九割は踊りが出來る女優のみとなつた。バアバラ・チャリッス、パトリシア・ノオスロップ、ディー・タアネルなどはその代表である。

ディー・タアネルは一年前にMGMが發見したニュウ・フェイスだが、彼女は八歳の時からバレエを習い、十二歳でプロフェショナルとなつた。本名エディシア・タアネル、イリノア州のドウナアス・グロオヴという小さな町の生れである。五呎六吋、一一八封度、ブロンドで、綠の眼をもつている。父親はシカゴの商人だが、母親は衣裳ディザイナアとしてハリウッドへ來て、エディシアの映畫界入りを狙つていた。

エディシアはMGMの臺詞と踊りのテストを通過した。彼女は紐育で踊りの舞臺にも立ち、芝居の舞臺の經驗もあつた。然し撮影所では前の經驗だけでよかつた。斯うして彼女は「パイレエト」「イースタア・パレイド」「言葉と音樂」等の一群のMGM巨作音樂映畫に立て續けに出演した。

ハリッドでは踊れることが、俳優になる一番の近路という最近の例の代表者である。

最近のアメリカのニユウ・フエイス

條件は「踊れますか？」

最近のアメリカ映画界では、若い女優志願者に一つの條件が必要になつて來た。配役部で必らず訊かれることは、「貴女は踊れますか？」と云うことだ。踊れる、と云うのは勿論ボール・ルームの踊りではない、彼等の註文はバレエ・ダンサアである。

無聲映画時代には俳優志望者には必らずリストが渡されて、次の項目に就いて、イエスとノオをつけなさいと云うことが第一試驗であつた。即ち、泳げるか、ダイヴィングが出來るか、テニスは、ボオトは漕げるか、馬に乘れるか、ピンポンは、自動車の運轉は、その他ハイ・ジャンプ、拳鬪、レスリング、ゴルフがあげられている。こんな場合、志願者は出來なくてもYESと書く。YESと書かなければ御採用にならないからである。

トオキイになつてからは、こういうことは第二次條件になつて、臺詞が云えるかをきめることと、あとはスクリィン・テストですんでしまつた。ところが最近は「踊つた經驗がありますか」が絶對條件になつた。

之は撮影所が費用を節約する爲に出て來た現象ともみることが出來る。スクリィン・テストを終ると、ニユウ・フエイスは劇とディクションとエロキユウションの勉强をさせられる。そして映画に出される時は、日本と同じで所謂〈仕出し〉に使われる。セリフを一言喋るとかである。背景を歩いているとか、お給金は週給百弗から百五十弗まで。勿論いきなり主役に廻る場合もある。然しこういうことは、所謂〈シンデレラ物語〉で萬に一つの異例現象である。

ハリウッドでは昔もそうだが、現在でもさかんにミュウジカル映画をつくつている。この場合踊り場面はつきものである。この踊りの場面の爲に、撮影所は中央配役機關から、特別の高いお手當てをつけて〈踊れるエキストラ〉を雇い入れる。之に

レット「三人の裸の女」に出ていたが、次は歌手になる決心をして各地を歌いまわり、南米へ行く一座に加つたこともある。その内に、ギャバンにも到頭幸運の女神がほほえみかけた。レヴュウの女王、ミスタンゲットに認められて、ムウラン・ルウジュのレヴュウに相當の役がつくことになつたのである。當時の月給が一千五百法だつたという。その後のギャバンは、ブッフ・パリジャンのオペレット「フロッシイ」や「銀行家アルセエヌ・ルパン」などに出ていたが、そのときトオキイが現われたのである。

ジャン・ギャバンの記念すべき第一回トオキイ作品は、パテ・ナタンの「各人に運あり」（一九三一年）である。しかし、彼が映画俳優としての名を確立したのは、オーギュスト・ジェニナの「パリ・ベギャン」アナトオル・リトヴァックの「リラの心」モオリス・トゥルヌウルの「中隊の陽氣」ハリイ・ラックランの「美しいマリニエール號」の四本に次々と出てからである。この四本の中一寸ふしぎに思われるのは、三本までが、フランスへ外國からやつて來た監督によつて演出されていることである。初めの中ギャバンを認めたのは、フランス人以外の監督者だつたわけである。そう言えば、同じ頃、ギャバンはドイツに赴いて、盛んにドイツ映画のフランス語版に出ている。その中の代表作は「トンネル」「ヴァリエテ」「美しい日々よさらば」などである。後年、デュヴィヴィエやルノワアルと組んで、多くの名演技を示し、フランスの代表的男優とされたギャバンがフランスの演出家と初めの中あまり組んでいないのは面白い現象である。

しかしなんと言つても、ギャバンの今日の地位をきづき上げたのは、デュヴィヴィエとのコンビによる幾多の名作のおかげであろう。

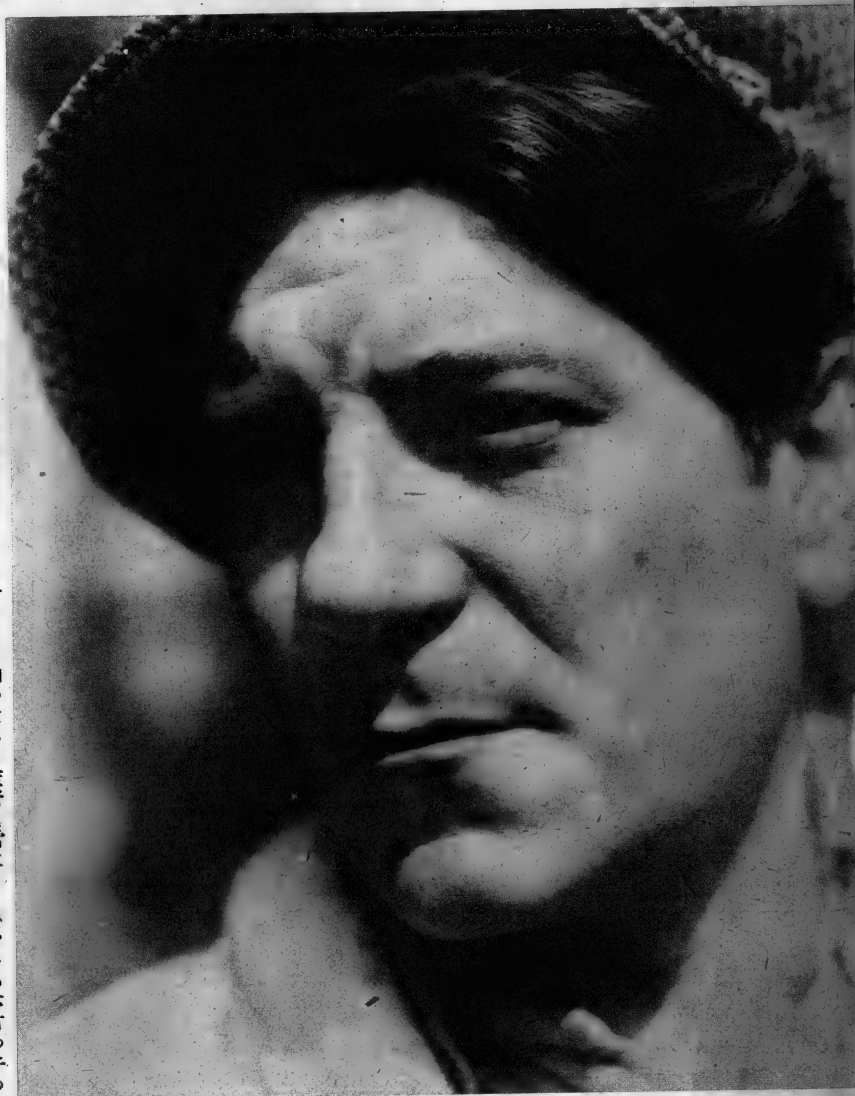
今、それを時代順にあげれば、「白き處女地」「地の果てを行く」「ゴルゴタの丘」「我等の仲間」「望鄕」となる。「白き處女地」のギャバンは、まだ大スタアの貫錄には至つていない。どちらかと言えば、マドレエヌ・ルノオに負けているようであつた。「ゴルゴタの丘」も役柄があまり彼にぴつたりしていなかつた。そこへ行くと「地の果てを行く」は、初めてギャバンの眞價を發揮したと言えよう。なにしろこの映画の原作であるピエル・マックオルランの小説「バンデラ」は、ギャバンが大變好きな小説で、何度も何度もよみ直して、自ら金を出して映画化權を買つたくらいにはげしい打ち込み方を示したものである。探偵の眼を逃れて外人部隊に身を投じたピエール・ジリエトの絶望の生涯は、ギャバンの心の中にひそめた情熱に裏づけられた體當りの演技によつて見事に描き出されていた。映画の中にあれほど強く男を感じさせた作品もなかつた。デュヴィヴィエとしても或る意味では最高の作品ではなかつたろうか。次の「望鄕」のペペは、ギャバンに絶好のはまり役だつた。

アルジェリアの暗黒街キャスバの王様ペペは、ギャバンにとつて一番たやすく演ずることのできる役であつたろう。彼の個性が最もよく物を言つている演技だつた。いささか通俗的であつたが、そこにのびのびと動きまわるギャバンを見たものは私ばかりではあるまい。「我等の仲間」は、それに比べれば平凡な役であるが、ギャバンが漸く内面的な演技を示し始めたことを人々に認めさせた。デュヴィヴィエについでギャバンとコンビとなつたのは、ジャン・ルノワアルである。「どん底」「大いなる幻影」「獸人」の三本、ギャバンが立派な演技を持つてゐることは、これらの作品によつて完全に示された。ルノワアルの言葉によれば「獸人」における機關士ランティエに扮したギャバンは、原作者ゾラに是非見せたかつたと言うほどの完璧な出來なのである。「大いなる幻影」におけるディッタ・パウロとのラヴシインに於て、いかに彼が微妙な愛の感情を示し得たかは人々のよく知るところである。ルノワアルが、自分の最も信頼する役者の一人だとほめたたえているのも尤もである。次ぎにギャバンを用いたのはマルセル・カルネである。デリュック賞を得たカルネの名作「霧の波止場」における脱走兵、戰前最後の作品「陽は上る」における兇惡犯人、いずれもこの世に絶望した人間の宿命を描いてギャバン得意の演技を振つてゐる。以上三人のフランス一流監督とのコンビ以外の彼は、レイモン・ルウロオの「使者」、モオリス・グレエズの「珊瑚礁」ジャン・グレミヨンの「愛慾」の三本しかその出演映画を持つていないようである。ギャバンがいかに自分の好む役しかやつていないかが分ろう。戰争中の彼は、アメリカに渡り、「夜霧の港」などに出ていたが、元々アメリカは食い物がまずいからと言つて戰前その招きを蹴つた彼のことだから、氣質に合わぬのだろう少しもよいところがなく、平和が來ると忽ち歸佛してしまつた。そして早速二三本の映画に出演して大いに溜飲をさげたらしいが、昨年以來、どうしたことか一本もその出演映画がない。デュヴィヴィエ、ルノワアル、カルネの作品活動がないためか、或いはかねての望み通り田園生活にひきこもつてしまつたのだろうか。人はよくギャバンをクラアク・ゲエブルに比較する。ゲエブルはハリウッドの王様といわれているようだが、彼も亦まことにフランス映画界の王様といえるかも知れない。尙ギャバンは、本年三月、巴里で、パリ一流の洋裁店ランヴァンのマヌカン、ドミニック・フウルニエと結婚した。

〝狂戀〟より、右はディートリッヒ

Pompee
最高級を誇る
ポンジー粉白粉

ジャン・ギャバン

岡田眞吉

ジャン・ギャバンは自然兒である。深く田園を愛し、自ら農場を持つていて、役者を止めたら農夫になるのだと自稱している。從つて、彼は、その演技を誇るような役者ではない。まずどんな役にでも體當りにぶつかつて行く。技巧を弄さない。ちやんとした個性を持ち、その個性によつてあらゆる役をこなして行く。スクリィンの上にあつても、日常生活におけるがように大地にしつかと足をつけて立つている。從つて、自分の好まぬ役は演じない。

自分が嫌いだと思えば、どんなによい役でもことわつてしまう。自分をよく知つている監督と常に協力しているのもそのためであろう。しかしそうかと言つて、演技力を持たぬタイプだけの男では決してない。重厚で、地味な演技ではあるが、その隅々にはなかなか繊細な神經が通つている。逞しい容貌の中にたまたま非常に優しいテムペラメントが光つている。それは、恐らくギャバンが、巴里の下町つ子であるからであろう。都會人の神經が、その素朴な人間味に味をつけているのである。その兩手の逞しさ、その兩眼の優しさ、その口元のアイロニイ、そこにジャン・ギャバンの役者としての成功した原因がある。

ジャン・ギャバンは一九〇四年五月十七日、巴里の下町、ラ・ヴイレットとモンマルトルの間に生れている。巴里の下町には一種獨特の肌合がある。メニルモンタン生れのモオリス・シユヴァリエのことを考えればどなたもそのことが分ろう。

ギャバンが畫面に出て來ただけで、その下町つ子のテムペラメントを感ずるのは私ばかりではあるまい。ギャバンの最大の當り藝の一つであつた「望郷」のぺぺに於て、身の危険を忘れて、巴里へのノスタルジアにもだえる心の悩みを、あれほど巧みに表現し得たことも當然のことであろう。ギャバンが、單純な自然兒に終らず、近代人の共感を捉え得る秘密はここにある。

ギャバンは七人姉妹の一番末つ子に生れた。父は、レヴュウの俳優で、母は小唄歌手であつた。父は、ジャンを自分の後釜にしたがつたが、ジャンは初めそれを厭がつて、拳闘家か列車の機關士になりたがり、家を飛び出してしまつた。しかし、しまいにはレヴュウの舞臺に立つようになつてしまつた。あのギャバンがレビュウの出身だと聞いて大抵の人は驚くと思うが、我が國における彼の初お目見得の映畫「はだかの女王」でビギンを踊る颯爽たる彼を覺えている人にはなるほどと考えられるだろう。事實、あの映畫におけるギャバンはレビュウの女王ジョゼフイヌ・ベエカアを向うにまわして、これをも壓倒するようなパアソナリテーの魅力を示し、私をして、凄い役者が出て來たとうならせたものであつた。自らなんとも言えぬ澁い聲でビギンの歌を低唱しつつ踊りまわるギャバンの姿は、畫面一杯に巴里下町の情趣をまきちらしていたものである。

當時、ギャバンの父は、フオリイ・ベルジエールのプロデユサアのフレジョルの友達であつたのである。そこで先ずフオリイ・ベルジエールのレヴュウにでた。次いで、リップのレヴュウに出、更にモオリス・イヴエーンのオペレット「デコルテの婦人」に一寸した役がついている。この頃から舞臺が面白くなりだしたのだが、生憎兵役というものが彼を待つていた。ギャバンは海軍に入つたのである。それから約二年間、彼は水夫の生活を味つた。この生活の中で彼は旅行というものの樂しさを身につけたと言われる。後年、多くの映畫に於て、ロケーションに出るのが一番大きな喜びの一つであるようになつたのもこのときの習慣からである。

除隊後のギャバンは、一時父と共に、ラウル・モレツテイのオペ

ヴィヴィアン・リイは秋の花

大黒東洋士

マーヴィン・ルロイは器用な監督だが、キャプラ、フォード、ワイラー等のように藝術的なエスプリを濃くもつた監督ではない。しかし一般受けのするメロドラマを作らせたら一流で、これは「キューリー夫人」「心の旅路」「哀愁」等が立派に證據立てている。

ところで「哀愁」だが、僕は世間でいうほどこの映画をいい映画とは思つていない。十年一日の如き大甘なラヴ・ロマンスにはいささかうんざりした。（といつても決して不快な氣持は抱かなかつた。むしろその描き方において同じストリート・ガールに取材した「肉體の門」その他一聯の日本の戰後派的悪傾向の映画と比較して感心した方だが――）ただ一つ、この映画で最も強く僕の關心を惹いたのがヴィヴィアン・リイの存在である。若しこの映画のヒロインに彼女を得なかつたら、おそらく僕はもつとひどく失望したに違いない。まあいえばこの映画はヴィヴィアン・リイでもつているといつてもいい。映画が映画だから彼女の演技が特に素晴らしいといつたほどのものではないが、彼女の醸し出す雰圍氣とか哀愁を含んだ顔立ちや華奢な身體のこなしから發散する魅力には誠に捨て難いものがある。

僕は春の花より秋の花が好きだが、ヴィヴィアン・リイは秋の花、それも素晴らしい青磁の花瓶に無造作に投げられた一輪ざしの秋の花の風情である。倦かず眺めたい花、いつまでもじつと見詰めていたい感じをもつた女である。大きく美しい碧い眼、白く透きとおるような肌、そして瀟條たるひよわな容姿、どこが特にどうといえない魅力が、無性に僕を惹きつける。笑うと兩頰の下にチラッと宿る一抹の影――なんという美しい、哀しい笑顔であろう。この笑顔は正に天下一品である。

「哀愁」はヴィヴィアン・リイの哀愁味を知るに好個の作品だ。しかし僕は何も「哀愁」だけに拘泥つて彼女を「哀愁」の女というのではない。映画女優としての彼女の名を一躍世界的なものにした「風と共に去りぬ」のスカーレット・オハラの役は、「哀愁」のヒイロンとは似ても似つかぬ性悪な女である。また四三年に作られた「シーザーとクレオパトラ」では傾世の妖姫クレオパトラを演じているのをみても、「哀愁」のヒロインのような役だけが彼女の身上とはいえないだろう。しかし「シーザーとクレオパトラ」はともかく、「風と共に去りぬ」は往年上海で見たが、映画そのものの出來榮えは色彩の美しさとスケールの大きさと原作の魅力以外それほど問題になる作品ではなかつた。ただヴィヴィアン・リイのスカーレット・オハラは噂に違わぬ素晴らしい出來であつた。事毎に運命に逆らつて悪女振りを發揮するオハラ役の彼女は、定評のあるベテイ・デヴィスの悪女型とは違つた新しいタイプを創造していた。思うにこれは、彼女の悪女らしからぬ容姿と悪女としての行動、この一見矛盾に思える不同調に、これ迄の類型的な悪女役に見られない新しいタイプが生れたのだろう。

僕が彼女を好きになつたのはこの「風と共に去りぬ」を見てからである。戰前に日本でも封切られた「無敵艦隊」や「茶碗の中の嵐」等では、可愛い女優という印象程度であつた。

彼女は今では御承知のようにローレンス・オリヴィエ夫人である。これがステュアート・グレンジャーなんかと結婚しようものなら大いに怒るが、相手がオリヴィエでは全然いうことなし。正に似合いの御夫婦であるし、それだけに彼女は女優としても一女性としても、僕の愛すべき女優の一人である。

↓ 『大いなる幻影』(La Grande Illusion, 1937) 戰前に輸入されながら、今日まで公開する機會を得なかつたルノワァルの名作である。ギャバンはフレネイ、シュトロハイムに伍して、堂々たる個性的演技を見せている。

↑ 『望郷』(Pépé le Moko, 1936) このデュヴィヴィエの一作により日本におけるギャバンの人氣が完全にゆるぎないものとして確立されたといつてもよい。ギャバンの映画中もつとも廣く知られているアルジェリアの物語。

ギャバンの名場面を顧みる★

↑ **『白き處女地』**(Maria Chapedelaine, 1934) ルイ・エモンの原作によるデュヴィヴィエの傑作、北カナダの狩人ジャン・ギャバンは、愛人マドレエヌ・ルノオの許へ行く途中吹雪のため最期をとげる。日本でのギャバン賣り出しの一作。

→ **『我等の仲間』**(La Belle Équipe, 1935) これもデュヴィヴィエ監督になるもので、ヴィヴィアヌ・ロマンスの女をめぐつてギャバンとシャルル・ヴァネルが對立の果て、ついに殺人沙汰がおこり、富籤で結ばれた五人の仲間は崩壊する

↑ **『どん底』**(Les Bas Fonds, 1936) ゴルキイの名作がジャン・ルノワアルによつて映画化され、ギャバンはペペルを演じた。ジュニイ・アストル扮するナタシアとの顔合せ。

→ **『地の果てを行く』**(La Bandela, 1935) デュヴィヴィエの傑作であり、ギャバンの壓倒的な魅力を見せた一篇。パリを逃れた殺人者がモロッコ外人部隊で最後をとげる。アンナベラとの灼熱の戀。

じめた。興行界全般の不況はテレヴィジョンの進出に拍車をかけられ、入場税問題、勞働不安、インフレーションなどの錯綜する惡條件に前途の光明も乏しく、せめては「チーム」の吸引力に頼って一ドルでも餘計に收入を圖ろうと望む劇場側の氣持はむしろ同情に値するものがあり、玄人用語でいうFilm teams are theatre Meat（映画チームは劇場の食事）の一句は映画を作るハリウッドに大きな共感をよびはじめて來た。「チーム」いやさか時代の到來するのも案外間近いのではなかろうか、とあちこちの新聞が豫想する根據の一つはここにある。

そこで、では一體いつ頃ハリウッドに「チーム」は誕生したのか――と考えてみると常識的には今から約二十年前、一九二七年にグレタ・ガルボに今は亡きジョン・ギルバートの御兩人が「世紀の戀人」として「肉體と惡魔」に出演したのが最初ということになる。何しろ二人の戀は凄まじいまでに恍惚的で、センセーショナルで、「戀多き女」「アンナ・カレニーナ」「クリスチナ女王」での湧かし方ときては今のファン諸君には想像もつかない熱っぽさがあった。

トーキーに入ってのっけに騷がせたのは例のアステア、ロジャースの歌と踊のコムビでざっと思い出しても「空中レヴュー時代」「コンチネンタル」「トップ・ハット」「ロバータ」「艦隊を追って」「有頂天時代」等、等。そして三九年の「カッスル夫妻」まで來て二人は別離、今度の「ブロードウェイのバークレー家」でまた組み合ったのだから正に十年ぶりの結合であり、それだけでも興行的魅力は少くないことになる。

「珍道中」シリーズは四〇年の「シンガポール珍道中」が最初で昨年の「南米珍道中」が最後。目下の所後續プランは發表になっていないが、このままで終る氣遣いはない。

ビング・クロスビーはこの他に「我が道を往く」で組んでヒットしたバリー・フイッツゼラルド老との共演が馬鹿な人氣だったので、「樂し我が道」を作り、目下は「朝早く」という探偵捕物帖を作っている。グリア・ガースンとウォルター・ピジョンの組み合せも當時なかなかの好調で「ミニヴァー夫人」「キューリー夫人」「パーキントン夫人」と三本の「夫人」ものを經て最近作は「ジュリアの不行跡」――このチームも年内にはもう一本作りそうである。

實生活でも夫婦であるハンフリー・ボガートとローレン・バコールは「脱出」をはじめ「大きな眠り」「暗い旅路」「キー・ラーゴ」などで「劇場に食事を與え」つつあり、この他ミッキー・ルーニーとジュディ・ガーランド、カサリン・ヘプバーンとスペンサー・トレイシー、まだ見ぬチームではアーサー・レークとペニー・シングルトンの「ブロンディ」シリーズ、ダニー・ケイとヴァジニア・メイヨの朗らかチーム、デニス・モーガンとジャック・カースンの陽氣な西部牧童チーム――など、など。

更に喜劇のマルクス兄弟、凸凹二人組、極樂二人組などを計算に入れると、莫大なチームの數になって來る。日本ではどうか――というと今は昔、牛原虚彦の「彼もの」における鈴木傳明と田中絹代小津安二郎の「喜八さん物」における坂本武と飯田蝶子、日活多摩川初期の瀧口新太郎と深水藤子のあこがれコンビ、その位のもので近年とんと影を沒してしまった。

果して俳優の數の貧しさによるものか、そもそもチームの力そのものがかく薄弱なのか……奇特の方にとっくりと考えて頂きたい。

『ブロォドウェイのバアクリイ夫妻』The Barkleys of Broadway は、『カッスル夫妻』以來十年目のアステア・ロジャアス、コムビの復活した記念作。ジュディ・ガアランドの病氣で圖らずも再現したこのコムビは、往年に勝るすばらしい人氣を湧き起した。

タヒチ再出現のこと

詩の國、夢の島、南海タヒチ島が映画叙情詩の素材として再びとり上げられる――というだけのことだったら何も驚くには當らない。それを事新らしくここに持ち出したのは次のような美しい人情噺がその裏に秘んでいたのである。

パラマウント映画「タブー」というのがあった（一九二九年）。今は故人となったドイツ産の映画藝術家F・W・ムルナウが、米國記錄映画界の第一人者ロバート・フラーティ（その近作に全米をKOした「ルイジャナ物語」がある）の援助を得て作り上げた映画で、舞臺は南海タヒチの島、夢多い青春の戀が美しく語られ、その戀ゆえ傷ましい破局が二人を訪れる船旅を通じてタヒチの風物がえもいえぬロマンとリリックの香氣を放った快作だったが、その時にF・Wが撮ったフィルムは實に五十萬フィートに及んでいたという。

所でF・Wの弟にロバートというのがいて、これがフラーティの許に「亡き兄に捧げる意味で再編集したい」旨を申入れて快諾を得たのが戰爭前のこと。弟はフラーティの好意による十五萬フィートのネガを携えて故郷ベルリンに歸り、愼重に再編集を初めた所へ戰爭、そして空襲――ついにそのうち六萬フィートを灰にしたが、本年五月決心も新たに殘りのフィルムに更にフラーティの援助による新撮影約三萬フィートを加えて三たび編集に着手したのである、

題名は「幸福の島」Isle of Happinessと既に決定。完成は今秋の豫定。フラーティは毎週一回は缺かさずベルリンへの激勵と物質的な後援を忘れないと傳えられる。どうもこういう話になると氣の弱い筆者はついホロリとさせられて敵わんのである。

アラ！豪華な
ナルビー
口紅
頬紅
高雅な香り
心持よきつき
東京・ナルビー化粧品株式會社

ハリウッド・チャット

W・W・W

ベティ・ハットン（パラマウント）

D・O・Sセリ賣りのこと

「ジェニーの肖像」を最後に當分製作を中止するデヴィッド・O・セルズニックは、既にその擁するスター、監督を一括してウォナー・ブラザースに賃貸してしまつたが、今度はカメラ、錄音機、セットその他の撮影機械の競賣を派手にやつつけた。同月廿五、廿六の兩日の話である。

その日、カルヴァ市RKO・パテ撮影所（過去十何年にわたつてD・O・Sが製作にいそしんだ所）は物好きなファンや他の撮影所からの忍び込みを交えて競賣人の數は無慮數百名、大へんな賑かさだつたが、第一日の傑作は去年の名畫「パラダイン事件」の舞臺になつたベイリーの大法廷が、作る時には八萬ドルもかかつたというのに唯の五五〇ドルで叩き落されたことと、その反對にタイプライター、机、椅子、フィルム編集機械などが何れも法外の高値で裁かれたこと。競賣責任者デヴィッド・ウァイツ君にいわせると「何しろ出タラ目だよ。これでは競賣ではなくて、まるで「汽車泥棒」だ」というのである。

第二日目は俄然御婦人が目立つてふえた。專らカツラ、衣裳、骨董の類が競賣臺に上つた故である。この日の傑作は「スペルバウンド」に使われた「巨匠」ダリがデザインした家具のセットでそれというのも婦人の脚（しかも御ていねいに黒の網目の靴下まではいている）だけを組合わせて机や椅子ができているのだから、好事家は眼の色を變えてわき立つたのだが、結局は御本尊セルズニックの影武者みたいな大將が五千ドルでかっ浚つてしまつた。どうやらニューヨークの「疲れたる」實業家あたりに轉賣されるものと觀測される。

以上二日間の決算をみると最初は四十萬ドルと豫想されたにも拘らず、どうやら十萬ドルから十萬五千ドルの間位に片付いた模樣。やはり「汽車泥棒」だつたのかも知れません。

チームで繁昌のこと

今年の五月から六月にかけてブロオドウェイを席巻した映畫の隨一MGMの「ブロォドウェイのバークレイ家」Barkleys of Broadway は御承知の通りフレッド・アステアとジンジャー・ロジャースとの「定評ある」チームの所産

その野放圖もない茶目ツ氣と樂屋落ち的な與太氣分とを身上にここ一二年のアメリカ全土を文字通り疾風枯葉を卷くの勢いで稼ぎまくつた、パラマウントの「アラスカ珍道中」や「南米珍道中」はいわずと知れたビング・クロスビー、ボブ・ホープ、ドロシー・ラムーアの三人組によるヒット。

以上の二本で、アメリカの映畫興行者は「チーム」の威力を改めて認識するとともに、製作者に對しては積極的に「チーム」重視の作品を要望する切實な叫びをあげは

つめたい夜霧のなかに、二人はひしと相抱いて唇をあわせた。が、殘酷な死の影は……

一

街道の霧は深かつた。

ひとつの影が、そのふかい霧の中にぽつかりと浮びあがつた。兵隊服を着ている。顔は疲勞で暗く、足どりも重い。うしろから光がみえて來た。トラックだつた。

「ル・アーヴルへゆくのかね?」

兵隊服の男は、運轉手に聲をかけた。

「そうだよ。乘つてもいゝぜ。」

男は、すまないな、と口ごもつて、運轉臺に入りこんだ。

「お前さん、この邊は初めてらしいな。霧が多いところだよ。」

「俺はトンキンに居たんだ、やつぱり霧はふかかつた。」

ヘッド・ライトの鼻先に、一匹の犬がとび出した。兵隊服の男は、いきなり運轉手の手からハンドルを奪いとつた。車は危く道路をそれて停つた。

「何てことするんだ。たかが犬一匹で、こちとらが御陀佛じやねえか。」

二人は劇しく云い爭つた。が、やがて兵隊服の男は、絶望的な調子でつぶやいた。

「煙草をくれないか。お前さんには殺すつてことがどんなことかわからないんだ。引金をひくのは何でもない。指一本うごかす簡單な仕事だ。が、その引金をひくと、相手の男は急に顔をしかめ、腹に手をやる。その手の間から血が流れてくる。そして仆れる。それでもうひとりぼつちになつてしまうんだ。何もわからなくなつてくる。まるで景色が消えてゆくようにだ。」

運轉手は兵隊服の男の顔をみつめた。その眼にはいたわるような色がうかんで來た。

もうル・アーヴルの港の外れだつた。兵隊服の男は禮を云つて去りかけた。

「これを持つて行きなよ。」

運轉手は煙草の袋をにぎらせると、車をスタアトさせた。響が霧の中に消えたあと兵隊服の男は再び重い足どりで歩き出した。が、うしろからついてくる白いものに氣がついた。それはさつき轢きかけた小さい犬だつた。

酒場は、煙草のけむりと女たちの安香水の匂いでむせかえるようだつた。その濁つた空氣をわがもの顔にのさばつている、氣障な三人の若者は、この邊の與太者の兄貴株リュシアンと弟分のコストオとオルフェランだ。

顔じゆう鬚だらけの老人が入つて來た。彼はリュシアンたちに近付くと勿體をつけた調子でいつた。

「この通り儂は來たよ。お招きにあずかつたのでな。本來ならこんなに汚らわしい場所に來るべきではないのじやが。何というひどい音樂だ。」

「ザベル。お前さんに音樂がわかるのか。まあいゝさ。それより用件だ。モオリスが何處にいるか教えて貰いたいのさ。」

「知らん。奴は時どき儂の店に來ておつたがお前らと同じ樣によからぬ奴とわかつたから寄せつけぬようにした。それだけだ。」

「冗談いうなよ。奴さん消えてなくなつたんで嫌疑が俺にかかつているんだ。」

「知らんものは知らん。儂は正直な商人だ。これ以上お前ら不良どもとは口をきかん。」

ザベルとよばれた老人は威嚴をつくつてリュシアンたちの席をはなれて行つた。

その頃、やつと街へ入つた兵隊服の男はふかい霧の中を、ホテルの前にさしかかつていた。小柄な一人の男が入口から出て來てぶつかつた。醉つている。いきなりからみついてきた。

「おれは古兵どのが好きだよ。あれ、その犬はお前のか?」

「ほつといてくれ。」

「いいじやないか。お前さん困つているなら救けるよ。俺はカア・ヴィテルていうんだ。泊るところがなけりや、パナマのうちへ行きやいゝんだ。來なよ。」

泊るところときいて心をうごかされたらしく、兵隊服の男は素直に醉つた小男と一緒に歩き出した。犬も尾いて來た。

「パナマのうちつてのはな、海水浴の脱衣場みたいなもんだ。四方に壁板があつて、そのひとつに入口があるだけさ。もち、屋根ぐらいはついているよ。」

二

町を外れた海邊に、ぽつんと取り殘されたような掘立小屋だつた。二人の男がいた。一人はこの小屋の主パナマ、ひとりは画家ミシェルだつた。

「疲れているのかね。」

パナマがきいた。

「ちよいとばかりだが。」

兵隊服の男はそうこたえたが、家に入つて氣がゆるんだのか、急に疲勞が出たような樣子だつた。光の中でみると、まだ若いたくましい男だ。

解説

「ジェニィの家」「惡魔が夜來る」のマルセル・カルネが、一九三八年「北ホテル」に先立ち製作したもので、彼の名をフランス映画界に大ならしめた佳品である。

原作はわが國でも知られているピエル・マクオルランの小説だが、映画とは非常にちがうものであるという。すなわち、パリのモンマルトルにある有名な酒場ラパン・アジルに集つた放浪者、画家、脱走兵、賣笑婦、殺人犯の肉屋の五人がたどる運命を描いているとのことであるが、カルネと、ジヤック・プレヴェルが脚色した映画では舞台も霧ふかいル・アーヴルの港にあらためられ人物も統合されて、放浪者と脱走兵をあわせてジャンが創られ、娼婦がネリィに改められたという感じである。臺詞はジャック・プレヴェル(「高原の情熱」)が書き、裝置はトロオネ(「北ホテル」)が擔當。撮影は、オイゲン・シュフタン、アルカン、パアヂュ、フオサアルの協力である。音樂はモオリス・ジョオベエル。

マルセル・カルネは雰圍氣を重んじる映画作家であるが、この作品でも霧が持つ雰圍氣を主題にしている。霧に象徴される詩情や哀愁で、全篇をつらぬいている。主人公はジャンとネリィ。ふたりの戀が中心となつてはいるが、この二人をとりまく人物も、すべて雰圍氣に生きており、臺詞もすべて非常に文學的である。極言すれば、ストオリィの變化を求めるよりも、臺詞のよさをしみじみと味うべき作品である。この映画がフランス本國などで北ホテルよりすぐれたものと好評されたのも、恐らくこのような角度で見事な統一を示しているからであろう。

出演者は、ジャン・ギャバン、ミシェル・シモンをはじめ、ロベェル・ル・ヴィガン、エモス、ピエル・ブラスゥル等、おなじみの多い人たちばかりだが、ギャバンの相手役を演ずるミシェル・モルガンは、戰前、「珊瑚礁」で知られた期待のスタアで、今次大戰中はアメリカにあつたが、歸佛するや忽ち人氣投票の上位に復活、依然としてすばらしい人氣を保持していることが證據だてられた。

配役

ジャン……………………ジャン・ギャバン
ネリィ……………………ミシェル・モルガン
ザベル……………………ミシェル・シモン
畫家…………………ロベェル・ル・ヴィガン
カア・ヴィテル…………………エモス
リュシアン…………………ピエル・ブラスゥル

霧の波止場

ミシエル・モルガン
ジャン・ギャバン 主演
マルセル・カルネ 監督

— 双葉 十三郎

「君は幾つ？」
「十七よ。」
「俺も十七だつたことがある。」
自動車がとまつた。リュシアンと二人の弟分がおりて來た。
「ネリィ。ちよつと顔を借しな。」
リュシアンはネリィをひきずるようにしてジャンからすこしはなれたところへつれて行つた。
「お前、モォリスのことを知らないか？」
「知るもんですか。ほつといて頂戴。」
「ちえつ。もうモォリスのことを忘れて、あの兵隊野郎が後釜か。俺だつてお前を綺麗だと思つてるんだぜ。」
いきなりリュシアンはネリィに接吻しようとした。ネリィははげしく逆つた。ジャンが近付いた。
「この娘に構うなよ。」
「御挨拶だな。こつちは三人だぜ。」
ジャンの腕がのびた。最初の一撃で、リュシアンは參つてしまつた。あとの二人はあつけにとられて立ちすくんでいるだけだつた。
「乗るのか、乗らないのか！」
ネクタイをなおしながらリュシアンは自棄に怒鳴つて自動車にもぐりこんだ。あわててあとの二人もつゞいた。ジャンとネリィは、しばらくの間だまつて、去つてゆく自動車を見送つた。
「あたしたちも左様ならしましよう。今夜パナマのうちへゆけたらいゝんだけど。」
つとよりそつた彼女は、手早く百フランの紙幣をジャンのポケットにおしこんだ。
氣づいたジャンが、
「ネリィ、ネリィ！」
と、よび戻そうとしたときは、もう彼女の姿は見えなくなつていた。

四

まがい物の寶石から小鳥まで賣つている店の奥の一室で、ザベルはティブルに二人前の食器を並べていた。リュシアンが入つて來た。ひどく昂奮している様子だ。
「またお前か。何の用だね。」
「俺のいうとおりにしろ。紙を出して、モォリスはお前が殺したと書くんだ。」
「なんでそんなものを書かなけりやならんのじや。お前はゆうべも自動車で儂をひき殺そうとしたり射とうとしたりした。大變な迷惑じや。儂がモォリスのことなど知るものか。」
そこへ弟分のオルフェランが入つて來てティブルに眼をとめた。
「おや、二人前だね。お客か？」
「儂の名付子が歸つてくるんじや。」
「ネリィが歸つてくると思うのか？」
「あの娘は燕の様だ。飛んで行つても必ず歸つてくる。」
リュシアンはあきらめたように肩をすくめると、オルフェランを促して出ていつた。
それといれちがいにネリィが入つて來た。
「とうとう歸つて來たな。お前は可愛い娘じや。が、可愛い女ともいえるな。」
そうねばるようにいうザベルの眼には妖

パリのうわさ★2

「人間同士」の製作費

大監督が金づかいがあらいため、フランス映画も樂じやないことは、まえにも書いたとおもう。

「人間同士」D'Homme à Hommes が、昨年暮ちかくに封切られ、赤十字の創設者アンリ・デュナンを主人公にし、これにジャン＝ルイ・バロオが扮しているので、たちまち世界的な評判になつたことは、日本の諸君も御存知のこととおもうが、實はこの映画——すなわち監督クリスチアン＝ジャク氏——が、途方もない金をつかつたことを最近知つて、筆者はドタンにアゼンとしたのである。

「人間同志」の製作費は、一億五千萬フランである。日本の金になおして二億圓ぢかくになる。もちろん、五千萬フランもつかつて製作を途中でやめたマルセル・カルネの「花の年ごろ」La Fleur de l'Age にくらべれば、そんな大金をつかつても、相當もうけるはずの「人間同志」の方がいいということにもなろうが、第一この「人間同士」たるや、そう大評判になるような——すくなくとも藝術的には——大した作品ではないのである。製作費をきいて、とたんに憤慨するわけでわないけれど。まさにこれ、ランピにあらずしてなんゾヤ。

魂のぬけたメチエ一點ばり、誇張した効果、粗大な感傷、ともすれば、大雄辯、不誠實、演出術のランチキさわぎ、いくらでも悪口はいえますよ。

無聲でとつてダビングでトオキイにしょうなんて、さもしいことを考える新進監督が泣きましょう。

デュヴィヴィエ乗りだす

「パニック」Panique 一本とつて、また外國へ行つちまつたデュヴィヴィエが、フランスにかえってきて、レジナで一本映画をつくる。

題名は「天國にて」Au Royaume des Cieux. 舞臺は「天國」ならぬ不良少女の感化院である。そこはもともと監獄だつたがいまは感化院に改造された。要するに、デュヴィヴィエも、目下フランスの大問題たる不良兒をいかにすべきかに、のりだしたわけである。

「シュシャ」で天下をおどろかしたイタリアのレアリスムのむこうを張つて、デュヴィヴィエのペッシミスムがどう發展するかけだし見ものである。カルネの「花の年ごろ」も不良少年の收容所を舞臺にしていた。商賣人の能率監督デュヴィヴィエが、まさか、カルネをまねして、途中でやめるようなこともしないだろう。豫算以内で——これが常習——しあげることうけあいだ。

日本のデュヴィヴィエ・ファン諸君のために、スタッフと俳優を列擧しておこう。原作・脚色、ジュリアン・デュヴィヴィエ臺詞、アンリ・ジャンソン、撮影、ヴィクトル・アルムニイズ、裝置、ムウラアル、主演、セルジュ・レッジャニ、シュジイ・プリム、アンヌ・サン＝ジャン、ジャン・ダヴィ。

筋は簡單なことしかわからないが、つぎのとおり——

不良少女感化院の女監督は、マドモアゼル・シャンプラ（シュジイ・プリム）である。彼女は刑罰が感化のもっともいい手段だとおもっている。そこの少女の一人マリア（アンヌ・サン＝ジャン）が、ピエエル・マッソ（セルジュ・レッジャニ）という青年と脱走した。それをとらえるために、マドモアゼル・シャンプラは、警察の力をかりた。この脱走者狩りは悲劇でおわったが、女監督も自分のマキアヴェリスムの犠牲となつた。

永遠の御夫婦

しばらく消息をたつていたジャン・キイプラとマルタ・エッゲルトの御夫妻が、ジャン・ボアイエの監督で、フランス映画に出演する。あいかわらず、二人でうたいまくろうという算段。

モツァルト、ヴェルディ、ウィニアフスキイ、グランスベルク、R・ルッケエジの歌が豫定されているが、よびものは、ルイギの新作「ヴァルス・ブリヤント」La Valse Brillante である。これが映画の題名になつている。

ジャン・ボアイエはミュジカルものが得意だから、おもしろいものをつくつてくれるだろうと、お世辭をいつておく。

脚本はジェラアル・カルリエとエルベエル・W・ヴィクトルの作、せりふはセルジュ、ヴエベルがうけもつた。撮影はヴェテラン、L・H・ビュレルである。

R・S・V・P

「今夜はちょいと素敵な集りだな。」
画家が云つた。そして、兵隊服の男が同意すると、さきをつづけた。
「集りは素敵だ。が、世の中は素敵じやない。あるがまゝさ。哀しく罪の多い世の中にでも、美しいものはある。」
「お前さん、綺麗なものを描くんだろう。」
「描こうとしている。美しい花や女や子供たちをね。だが、描いているうちにその中にひそんでいる罪がみえてくるんだ。バラの花の中にも罪が……」
「そんな世迷言はやめてくれ、俺はメシも食つていないんだ。」
兵隊服の若者は焦立たしそうに叫んだ。

「そりや氣の毒だな。こつちへ來るがいい。パンとソォセイヂならあるよ。」
パナマは入口と反對の扉をあけた。そこは臺所になつていた。
ひとり殘されると兵隊服の若者は、ソォセイヂにむさぶりついた。そしてひと息ついて眼をあげたとき、いままでは氣がつかなかつた窓邊に、レィンコォトを着た一人の女が、じつと立つているのを見出した。
「おい、君も腹が減つているのか。」
彼の言葉にふりかえつて弱々しく微笑した女は、意外なほど若く美しかつた。
「その犬、あなたの？　とても美しい頭ね。」
「君だつて美しい頭を持つている。すてきだよ。君をみていると何だかうれしくなる。」
若者は彼女をみつめながら云つた。
「まるで映画みたいだ。小さな羽根を春中につけた子供が小さな矢を射る。するとロマンスが生れる。それから涙だ。」
「それは戀のおはなしなの？」
「お伽噺にしてもいゝさ。君は赤頭巾。お祖母さんの病氣を見舞にゆく。すると狼が出てくる。狼は俺さ。」
「何故そんなに笑つてばかりいるの？　とても哀しそうな笑い方だわ。」
「氣にしないでもいい。それより、君はいままでに誰かを愛したことがあるのかい？」

「ないわ。」
彼女は淋しそうに首をふつた。
「君の名前、何ていうの？」
「ネリィよ。」
「俺はジャンていうんだ。」
ふたりはじつと顔をみつめあつた。そのとき突然、おもての部屋からパナマの罵聲がきこえ、つゞいて鐵砲の音がした。
射つたのはパナマだつた。リュシアンたちが飲ませろと押し込もうとしたのを追拂つたのだ。
「どうやら奴らにも僕のいうことがわかつたらしいな。」
自動車の音が消えたあと、パナマとカア・ヴィテルは戸外に出てみた。靜かだつた。氣がつくと、物かげに誰かがひそんでいる。鬚もじやのザベルだつた。
「怪我をしたのかね？」
パナマがきいた。
「いや、ちよつとした傷だよ。ラムはもらえんかね。」
「ラムはないが、洗うなら水がある。」
ザベルは手についた血を水桶で洗いはじめた。
「なんだ、傷なんかないじやないか。」
「たしかに怪我をしたと思つたんじやが。」
「お前さんの血じやないね。まアいゝさ。夜があけかかつている。早くゆきな。」

三

「あたし、夜が明けるたびに、今日は何かいいことが起りはしないかと思うのよ。でも何ひとつ起らないうちに夜になつてしまうの。すると、とても哀しくなるわ。」
窓からさしこんでくる弱い夜明けの光をみつめながらネリィが云つた。
「その何かつていうのは、戀のことかい？」
「そうよ。」
扉があいた。カア・ヴィテルが入つて來た。
「明けたよ。俺は波止場へ仕事にゆく。來るかね？」
「君はこゝに殘つているのかい？」

ジャンはネリィをかえりみた。
「いゝえ。」
「何處へゆくの？」
「わからないわ。」
「じやあ一緒にゆこう。」
ふたりはおもての部屋へ出た。畫家がジャンをひきとめた。
「君は人生を愛しているのか？」
「お日樣が照つているかぎりは、さ。」
「人生のほうでも君を愛しているかな。」
「いままではひどい仕打ちをうけたが、どうやら變つて來そうだよ。」
ジャンはネリィに眼をやりながらこたえたが、自分の軍服に氣がついてパナマにきいた。
「背廣はないか？」
「こゝにはないね。が、夕方歸つてくるまでにさがしておいてやろう。」
「靴のサイズはいくつだ？」
畫家が口をはさんだ。
「四一だが、何故だ」
「何でもないさ。」
が、ジャンがネリィと寄りそつて出て行つたあと、畫家はひとりごとのように云つた。
「偶然て奴は、思わぬ功徳をするものだな。靴のサイズは俺と同じ四一。それに背廣をさがしている。あいつは自分の存在を變えてしまいたがつているんだ。では、ひと泳ぎして來ようか。」
「冗談じやない。こんな日に泳げるか。」
パナマがあきれた表情で云つたが、畫家は憑かれたひとのように云いつゞけた。
「海は荒れていて霧がふかい。僕は泳ぎがうまくない。が、力のかぎり沖へ泳いでゆくんだ。そして深い霧だ。」
「一體、何のはなしだ。」
が、畫家はこたえずに、靜かな足どりで海のほうへ出て行つた。
ジャンとネリィは波止場の欄干にもたれて、ぴたりとからだをよせ合いながらふかい色をたたえた水面をみつめていた。

えて行つた。

ジャンとネリィは再び廣場へ出た。いまのふたりには愛情の昂まりがあるだけだつた。無言に相抱きながら、その足はホテルのほうへ向いていた。

「あなた、夢をみていたのね。とても優しいことを仰言つたわ。何度も何度も、あたしを愛しているつて……」

「おぼえがないな。君が夢をみたんじやないのかい？」

「ほんとに夢の様だつたわ。でも、いま何時かしら。」

「時間なんかどうでもいゝさ。」

「もうお日様が照つているわ。」

「何故そんなにうれしそうに笑つているの。」

「だつていままで、人生つて哀しいものだと思つていたんですもの。それが……」

扉をたゝく音がした。朝食と新聞を持つて來たビオイだつた。が、その新聞をみたとき、ジャンの幸福は破れ去つたようだつた。與太者モォリスの死體が海から發見され、それと一緒に、重石をつけた軍服が發見されたというのだ。パナマにあと始末をたのんだ自分の軍服だ。

「ネリィ。泣かないでくれ。俺は逃げなけりやならない。うまい工合に今日出帆する船があるんだ。」

「そんなこと、そんなこと一言も仰言らなかつたじやないの。」

「いえなかつたんだ。あんなに君がうれしそうにしていたもんだから。俺はおたずね者なんだ。どつちみち逃げなけりやならないんだよ。」

「仕方がないのね。お發ちになつたほうがいゝわ。あたし、あなたがどんな遠くへいらしつても幸福だわ。」

「君のことは忘れないよ。あつちへ行つたら手紙を書く。そしたら君も來るんだ。」

「きつとゆくわ。」

「君と離れて俺はゆく。でも二人でいた間がどんなに幸福だつたかは忘れないよ。君は俺をどんなによろこばせてくれたか、自分じゃわからないだろう。ゆうべ一晩のことも……」

「いまでもなの？」

「いまだつて、昨夜と同じように幸福だよ」

もう、別れを惜しむ間もなかつた。ジャンはそのまま波止場へかけつけた。船醫が待つていた。相變らずずつきまとつて離れない小犬を、ジャンは船室にいれてやつた。

六

ネリィは力のぬけた手でザベルの店の扉を押した。

「ネリィかね。とうとう帰つて來たな。心配していた。新聞は讀んだかな。」

ザベルはかかえるように彼女を奥の部屋へつれていつた。

「今度のことがいい教訓になるといいが。」

「あたしのことは放つといて頂戴」

「お前はあの男と一緒にホテルへ行つてひとつベッドでゆうべをすごしたのじやろう。ネリィ。お前は變つた。いままで輝いたことのないその美しい眼が、そんなに輝いている。」

ザベルの瞳には劇しい色がうかんで來た。

「儂はお前が好きなんじや。モォリスを殺したのもこの儂じや。あんな男にお前をとられてはと思うと我慢ができなかつた。」

そう叫ぶなり、ザベルはネリィに挑みかかつた。

「よして！よして！」

ネリィは必死に抵抗した。が、狂つたザベルの力はつよかつた。

そのときだつた。ジャンがとびこんで來た。二言三言かわす間もなく、二人の間には劇しい争いがはじまつた。

やがて、ジャンが立ちあがつたとき、ザベルの呼吸は絶えていた。

「ジャン！」

「ネリィ！」

二人は犇と相抱いた。「俺はどうしてもゆけなかつたんだ。」

「うれしいわ。でも早く逃げて。逃げて頂戴。まだ、出帆に間に合うわ。」

外は霧だつた。ジャンはよろめくように店を出た。一臺の自動車が、道路にとまつていた。その窓からリュシアンの顔がのぞいた。拳銃が光つた。

一發、二發。銃聲がつゞけざまにこだました。ジャンのからだは一、二歩よろめいて歩道に崩れた。

「ジャン！ジャン」

走りよつたネリィが、彼のからだをしつかりと抱いたとき、彼の顔色はもう土色にかわつていた。

「ネリィ。はやく、はやく接吻してくれ。」

彼女は唇を彼の口におしつけた。彼はすこし微笑したようだつた。そして、そのまゝがつくりと首をたれた。

「ジャン！ジャン！しつかりして！死んじやいや。あたしをひとりぼつちにしないで。こんなにあなたを愛しているあたしを殘して死んじやいや！」

もはや呼吸のたえたジャンのからだをかき抱いて、ネリィは號泣しつゞけた。

霧の中を、白い小さな固まりがとぶように近づいて來た。あの小犬だつた。首にはかみきつたらしい綱の切端がついていた。

波止場のほうから出帆の合圖の汽笛がきこえて來た。

霧は、また深くなつてきたようだ。

しい光があつた。

入口の扉があく音がした。ザベルは食卓を離れて出ていつた。ジャンだ。波止場で明日ヴェネズエラへ出帆する貨物船のはなしをきいての歸りがけに、店の前をとおると、美しい小箱が眼についたのだつた。

「あの箱がほしいんだ。ジャンとネリィという名前を彫つてくれないか。」

きくなりザベルは奥に向つて叫んだ。

「ネリィ。お前に贈り物だよ。」

彼女はジャンの姿におどろいた調子で云つた。

「まア、あとをつけて來たの?」

「通りがかりさ。」

「何故そんな贈り物を買うの?」

「女に貰つた金だからさ。」

「さあ、奥で一杯いかがですな。ネリィ。地下室から酒をとつて來ておくれ。」

ザベルが口をはさんだ。そして、ネリィが階段をおりてゆくのを見送りながらこういつた。

「いい娘でしよう。もつともお袋とおなじように、時どき居なくなりますがな。あの娘のお袋は何度も出て行つたが、ある日とうとう歸つて來なくなつた。父親もいゝ人間でしたよ。ところで、今夜もパナマのところにお泊りかね?」

「俺は氣にいらないことをきかれても答えないんだ。」

「そんならそれでもいゝが、儂は數字のおぼえがよくてね。たとえば三六一四。」

「何のことだ。」

「お前さんの軍隊のシャツについている番號さ。お前さんがまともに除隊した兵隊じやないことはお見とおしさ。が、お前さんには恩がある。リュシアンを痛い眼にあわせてくれたからね。儂も恩がえしのつもりで默つているよ。お金や旅券を進呈してもいい。が、もうひとつお頼みしたいことがあるんじや。リュシアンはいつも海岸にいる。そばへ行つて、ちよいとひと突きしてくれればね。」

が、ジャンは受けつけなかつた。そしてネリィと夜のお祭りで會う約束をして、パナマの家へ歸つた。

彼の顔をみると、パナマは一揃えの背廣と靴を差出した。それは畫家ミシェルがつけていたものだつた。

「人は來り人は去る。あいつがお前に残していつたのさ。金もある旅券もある。この繪具箱をかつぐんだ。お前は今日から畫家のミシェル・クラウスだよ。」

五

祭りの廣場はごつたかえしていた。ネリィとよりそつてあるくジャンの表情は幸福にあふれていた。ミシェルの背廣を着て波止場へ行つた彼は、畫の好きな船醫に會いヴェネズエラへ乘せて行つてもらう約束をして來たのだ。

二人は寫眞をとつた。ジャンは旅券用のを一枚、餘計にとつた。

二人は暗い壁に身をよせた。

「君は僕と一緒にいるとうれしい氣がするかい?」

「生きかえつたようよ。あんたにはわからないくらいだわ。」

「君の眼は素敵だな。」

「接吻して頂戴……。あゝ、もう一度。」

二人は脣を合せたまゝ、しばらく動かなかつた。何處からか廻轉木馬の音樂がきこえて來た。

「あれに乘ろう。」

古風な音樂にのつて廻轉する木馬のうえで二人は子供のように戯れた。突然うしろから手がのびて、ジャンの帽子を奪いとつた。ふりかえるとリュシアンだ。相手を知らずにやつたらしく、與太者はジャンだと知るとハッとしたように顔色をかえた。がそのときはもう、ジャンの強い平手うちが頬を見舞つていた。

「覺えていろ。」

リュシアンは血走つた眼でジャンをにらみつけながら、つれの女と人ごみの中へ消

ハリウッドは大騒ぎ

アカデミイ賞異聞

アカデミイ賞の發表の一週間ほど前のことである。あるパアテイで、ロレッタ・ヤング、ロザリンド・ラッセル、ジエイン・ワイマン、ジョオン・フオンテインの四大スタアが一堂に會したと思召めせ。ロレッタ、ロズ、ジョオンの三先輩は、アカデミイ演技賞の候補者になつて、そわそわしていたジエニイ・ワイマンにそれぞれの忠告を與えていた。

「あんまり期待しない方がいいわ。あたしを御覽なさい」とロズがいつた「あたしが貰えるとばつかり思つてたのに、このひとにさらわれちまつたのよ」

傍で、ロレッタがフキ出した。

(前年度、最有候補だつたロズがダーク・ホースのロレッタにオスカアをもつてゆかれたことは、御承知のとおり)

「もし、あなたが貰うことになつたら」とこんどは、輝けるオスカア・ウインナアの先輩ジョオンがいう。「感きわまつて泣いたりしちやダメよ。涙でマスカラがとけて、寫眞を撮るとき眼のまわりが眞黒になつたりすると醜態よ」

可哀そうに、ジエニイはこれらの先輩の教訓を肝に銘ずるため、すつかり神經質になりパアテイの樂しさもどこえやらという様子だつた。……が、さてこの立派な忠告もあの感激の宵、どこまで思い出せたことやら。

男親心を誰か知る

四人の娘の母親のジョオン・ベネットは、長女のダイアナのお産間ぢかと聞いて病院にとんでいつた。娘の初産が心配で、いてもたつてもいられなくなつた彼女は病室の前の廊下を行つたりきたりしていた。

やがて、初孫のアマンダが安産したときいてようやく彼女の足が止まつた。彼女が疲れきつて坐つているところに、夫のウオルタア・ウエンジヤアがいつた。

「さつきから君の歩きまわつていた距離は十マイルくらいにもなるね」

そこで、四回のお産の經驗をもつジョオンは足をさすりながら答えた。

「お産を待つ身つて、こんなに辛いもんだとは思いもよらなかつたわ。どんなことがあろうと、父親になるのは御免だわ」

ミツキイの激怒

ミツキイ・ルウニイは、マネジヤアのサム・ステイフエルを突然クビにした。

というのは彼が首つたけになりつい先頃婚約を發表したウオナアのスタアレット、マアサ・ヴイツカアスに贈ろうと思つた五千ドル(邦貨約百八十萬圓)のエンゲエジ・リングを買うことをサムが拒否したからである。

(ハリウツド・スタアはマネジヤアに會計を任せているのが通例である)

ところが困つたことにサムはミツキイの仕事の中心をなすルウニイ會社の共同出資者になつているので、事はカンタンに濟まなくなつた。二人はそれぞれ辯護士を傭い、法廷でこのクビの是非を爭うことになり、事件は大分長びく模様である。

かは、そのために身を滅すことになるからと仕事に妥協も必要なことを說くが、彼の信念は動かない。ニイルはクウパアからはなれて金力の全能を信ずる新聞社長のレイモンド・マッセイと結婚した。クウパアは建築家として次第に産をなして行つたが、ある日新しい建築で、自分の設計が何者かに改惡されて進行していることを發見する。自已の信念に挑戰する者に對し我慢しきれなくなつた彼は建築場に爆藥を仕掛けてこれを爆破した。そして法廷に立つた彼は大衆の低俗な好みに盲從することは人間の進步性を自殺せしめるものだと絕叫する。

クウパアの理想主義的人物に對立する人物としてマッセイとその部下の編集者ロバアト・ダグラスが出てくる。ダグラスは天才否定の煽動家で、大衆の力ほど强いものはないと信じている男であるが、ある批評家はこの人物にコムミュニズムが象徵されているといつている。

勇士の故郷

(UA)

原名——Home of the Brave
監督——マアク・ロブスン
原作(戯曲)——アーサア・ロウレンツ
脚色——カアル・フオアマン
俳優——ダグラス・ディック、スティヴ・ブロディ、ジエフ・コリイ、ロイド・ブリッジエス、フランク・ラヴジョイ

今春「チャムピオン」を發表して大問題となつたスタンレイ・クレィマアのスクリィン・プレイズ・プロの第二作で、これまた前作に劣らぬ問題作である。

原作はブロオドウェイで上演された芝居でアンチ・セミティズムを主題にしたものであつたが、これを黑人問題につくりかえたところにプロデュサアの慧眼がある。（この主題は最近ハリウッドでイリア・カザンの「ピンキイ」その他の大作にとりあげられはじめた一つの傾向である）

太平洋戰線のある小島。その部隊の五人の兵士がこの物語を織りなしてゆく。ダグラス・ディックの若い少佐、フランク・ラヴジョイの思慮に滿ちた曹長、出征前は金の力に物言わせていたスティヴ・ブロディの一等兵、善良な青年のロイド・ブリッジェス、そして黑人兵士のジェイムズ・エドワアズ——このうちエドワアズは黑人なる故に、學校時代の舊友ブリッジェスを除いて他の三人から餘り親しまれない。

五人の兵士は敵中にあつて、暑熱や害蟲に惱まされながら苦戰をつづけてゆき、苦しいなかに五人の氣持はすつかり結ばれてゆくが、ブロディだけはエドワアズに對する偏見をもち事々に彼を輕視している。

ある日、ブリッジェスが狙擊兵にやられるが、居あわせたエドワアズは重要な地圖の安全を圖るため救けることが出來ずにその場を脫出しなければならなかつた。ディックの隊長はブリッジェスの救援よりも殘つた人員の保全が大事だと考えるが、責任と友情に耐えきれずエドワアズは單身引きかえし、ブリッジェスの死を看とる。（この場面は非常に感動的である。）彼はいつまでもブリッジェスの死は自分だという責任感につきまとわれ精神異狀の徵候を發するが、ジェフ・コリイの手當てで恢復する。

すべてが誠實さをもち、單純なうちに力强い感銘を與える佳作である。

最近のアメリカ映画の評判作には、ヨオロッパ映画の影響をうけてか、技巧的なものよりも、こうした單純な主題を力强く描いたものがおおくなつてきた。

"SUPERB! ONE OF THE GREAT FILM ACHIEVEMENTS OF RECENT YEARS!"
—Alton Cook, World-Telegram
Home of the Brave
DOORS OPEN 11:45 A.M.
Victoria THEATRE
Late Shows Nightly · Continuous Performances

カットは「勇士の故郷」のニュウヨオク封切館の廣告

ちに勅諚を傳えるのに、使者としてシッドカップがえらばれ、ネルと共に大活躍をする。シッドドーヴァハウス卿の城が主な舞臺で、シッドが女裝してクロムウエル（エドマンド・ウイラード）とフザけるあたりが、アチヤラカの狙いとなつている。ウオルター・フオードはもともとジヤック・ハルバートやジヨージ・フオームビーなどの主演のイギリス喜劇映画を得意としてきているだけに、シッドフイールドを第一回主演映画で、たちまち英國映画の喜劇王にする意氣込みらしい。ともかく俗ウケすることだけは確實と見られる。助演はデスモンドとウイラードのほかメエリー・クレア、ブライアン・ウオース等が目ぼしいところ。撮影ジヤック・ヒルディヤード、音樂ランバート・ウイリアムスン、美術監督カーメン・ディロン。

☆逃亡者

"Man on the Run"

アソシエイテッド・ブリテイシユ映画で、ローレンス・ハンチントンが脚本を書きおろし監督したスリラー。主役はデレック・フアーで、爆擊で生活が出來なくなつた兩親を助けるために軍隊を脫走する。質屋でピストルを買ろうとしているところで、警官が何物かに射殺される。脛に傷もつフアーは逃げてジョーン・ホプキンスの若い戰爭後家に同情され、大活躍をして眞犯人を捕え、身の潔白を立證する。その功勞で脫走の罪を輕減され、ジョーンは彼の釋放の日を待つ、というお話。筋は出タラメで不自然だが、ハンチントンの監督がキビキビしているので、スリリングな効果は大いに盛られ面白く見られる。デレック・フアーの演技もよろしい。撮影ウイルキー・クーパー、音樂ハンス・メイ。

☆青い礁湖

"The Blue Lagoon"

フランク・ローンダーが監督したインディヴイデュアル作品。H・デ・ヴイーア・スタツクプール作の小說を忠實に映画化したもので、テクニカラーの色彩が美しい。ロビンソン・クルーソーとターザンをつきまぜて、セツクスを加味した南海映画。少年時代に漂着した南海の孤島で、ジーン・シモンズとドナルド・ハウストンが成人する。そこにジエイムズ・ヘイターとシリル・キユザツクの惡商人がやつて來て、ジーンを誘拐し、ドナルドに眞珠採りをさせようとするが、仲間われして惡人は共倒れとなる。ジーンとドナルドは春に目ざめてジーンは子供を生む。その子を文明社會で育てようということになり、ドナルドが古いボートを修理して、親子三人が南海を去る、という話は監督ローンダーとジョン・ベインズとマイケル・ホーガンの三人で書いた脚本である。ジーン・シモンズがすばらしく、今や大スタアの面目は十分である。新人ドナルド・ハウストンは演技は若いが、美しい肢體の魅力はそれをつぐなつて餘りある位に立派だ。ノエル・パーセルが二人の幼年時代、共に漂着する老水夫に扮している。音樂クリフトン・パーカー。色彩撮影ジエフリー・アンスウオース、

アメリカの新作

何でもござれ（ＭＧＭ）

原名——Any Number Can Play
監督——マアヴイン・ルロイ
原作——エドワアド・ハリス・ヘス
脚色——リチヤアド・ブルツクス
主演——クラアク・ゲイブル、アレキシス・スミス、ウエンデル・コリイ、オウドリイ・トタア、フランク・モオガン、メリイ・アスタア、リユリス・ストオン。

「命令決斷」につぐゲイブルの新作で、復員後五本の彼の映画中、もつとも娛樂的要素の濃いものという評判である。彼は、賭場の經營者だがすこぶる公平な人物を演ずる。そして手下共からは絶大の信頼をうけている。一方彼自身はさんざんもめ事の末結婚した妻のアレキシス・スミスに依然として首つたけである。伜のダリル・ヒックマンはまた、父の人格に最大の尊敬を拂つているが、賭場の經營者であるという一事だけに不滿をもつていた。ある日賭場の客フランク・モオガンが馬鹿當りをして店が破産の危機に立つや、ゲイブル自らその相手にまわつて、モオガンの馬鹿づきをおさえる手並をみせ、一層伜にうけてしまう。ゲイブルとしては、仕事の將來に疑惑を感じるし、醫者から心臓に注意するようにいわれて、足を洗いたいものだと思う。これにからんでウェンデル・コリイ、オウドリイ・トタアの仔分夫婦の裏切や、メリイ・アスタアの彼に對する誘惑などの事件が起つてくる。

ゲイブル＝スミスという初顔合せはわりとよい効果をあげておりその他キャスティングのよさとルロイの適切な演出によりおもしろい映画になつている。ゲイブルはどんな役を演つても、はや貫錄だけで保たせてしまう境地をみせている。

バシュフル・ベンドの金髪美人（廿世紀フォックス）

原名——The Beautiful Blonde from Bashful Bend
原作・脚色・監督——プレストン・スタアジエス
主演——ベテイ・グレイブル、シザア・ロメロ、ルデイ・ヴアレエ、オルガ・サン・フアン、スタアリング・ハロウエイ、ヒユウ・ハアバアト、エル・ブレンデル、ポオタア・ホオル

めずらしくもベテイ・グレイブルが拳銃をもつて暴れまわるというミユウジカル西部劇である。時代は一八八五年、西部の荒くれ男たち相手に酒場から酒場を渡りあるくすごい美人の踊子はいうまでもなくグレイブルが演ずる。彼女はこんな世界にいるだけにカラミティ・ジェインばりに二挺拳銃をもたせたら大した腕前で、怪しからぬ振舞に及ぶものはテもなく擊退される。その中の一人シザア・ロメロにも彼女はキツいところを見せるが、ポオタア・ホオルのシエリフがその場で拳銃沙汰をとがめ、彼女を逮捕する。牢破りをしたグレイブル孃は今度はホオルの受持地域外のバシュフル・ベンドでロメロを狙う。——結局、最後にはロメロと和解するわけであるが、才人スタアジエスの才氣煥發のアイデアにのつて、グレイブルの新しい一面がみられる。助演者に一とくせあり氣な人物がずらりとそろえられているのもスタアジエス好みである。グレイブルはかなり昔から拳銃操作の稽古をつんでいたので、はじめての役もイタについている。もちろんテクニカラア映画である。

定礎（Ｗ・Ｂ）

原名——The Fountainhead
監督——キング・ヴイドア
原作・脚色——エイン・ランド
俳優——ゲエリイ・クウパア、パトリシア・ニイル、レイモンド・マツセイ、ケント・スミス、ロバアト・ダグラス、ヘンリイ・ハル

一九四三年に發表されたエイン・ランド（「ラヴ・レタア」の脚色者）のベスト・セラアの映画化で、原作者自ら脚本を執筆している。非常に尨大な原作なので、そのままの映画化は困難であるが、主題と主要人物についての改變はない。

ゲエリイ・クウパアは天才的な近代建築家を演ずる。彼は大衆的な好みには興味をもたず、つねに獨特の嶄新な設計を發表してゆき名聲をもつていた。そして、ある富豪の娘パトリシア・ニイルと劇しい戀に陷ちた。彼女は俗惡なものと戰いつづけるクウパアがいつ

イギリスの新作

☆ドルウイン最後の日 "The Last Days of Dolwyn"

ブリテイシユ・ライオンのアナトール・デ・グルンワルド作品。「小麥は綠」の作者エムリン・ウイリアムスが自作・自監督・自演したものである。一八八〇年代のウエールスの美しい村の傳說を素材として、ウイリアムスが書きおろした脚本で、イデイス・エヴアンスの中年の後家はドルウイン村の代表的村民である。彼女は一人息子の墓まいりと、二人のまま子を愛している。平和な村にエムリン・ウイリアムスの差配が歸つてくる。大實業家の手代の彼は、村を貯水池にするため村民を放逐するのが役目だ。後家は自分の土地の正當な所有權を證する書類を發見したので、惡手代と爭う。後家のまま子の一人リチヤード・バートンはウイリアムスと其事で喧嘩して殺して了う。わが子を殺人の罪におとさないために、後家は堤防をこわしてドルウイン村を洪水とし證據をなくして了う、というメロドラマである。ラストの洪水シーンのスペクタクル以外は、かなり演劇的であるが、エヴアンスとウイリアムスの演技はよいし、ローカル・カラーはなかなかに見事だ。撮影ガス・ドリス、音樂ジョン・グリーンウツド。

☆ピムリコへの旅券 "Passport to Pimlico"

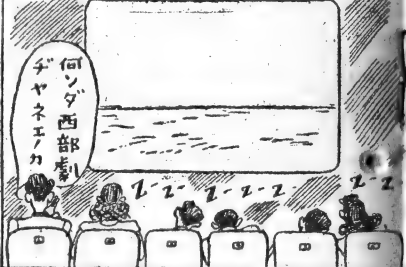
マイケル・バルコン製作のイーリング作品「亂闘街」「愛の海峽」のT・E・B・クラークの創作脚本で、政治的諷刺を含む喜劇である。監督は協同製作者から監督に轉じたヘンリー・コーネリアスである。ロンドンのピムリコでのこと、スタンリー・ホロウエイの雜貨屋は、暑熱のひと時を晝寢していると、突然起つた大爆發。子供たちがナチの落した最後の不發彈を處置したのである。ホロウエイが娘のバーバラ・マレイと、爆發坑をしらべると金塊と書類が現れる。十五世紀の時の英王の證書で、ピムリコの地は永久にバーガンデイ所領也とある。マーガレツト・ルザフオードの教授が實物と證言したので、きゆう屈な統制にあきている人々は、ピムリコはフランスだというので、英政府の食糧切符は破りすて、ロンドンに對して獨立宣言をする。ホロウエイは大統領、魚問屋や銀行家が内閣を組織する。折しもポール・デユピユイがバーガンデイ公であることが分り、雜貨屋の娘バーバラと戀におちる。ロンドンの市中に外國が出來たので、ヤミ屋が押かけて混亂が始まる。英政府はピムリコを鐵條網で圍み、水道も電氣も切斷して了う。ピムリコ人は子供たちを疎開させる。しかしロンドン人はバスの上から食糧を投込んでくれるし、ヘリコプターで供給してくれるが充分でない。内閣ではベシル・ラドフオードとノーントン・ウエインが口論するばかり。腹いせに地下鐵停車場で、ピムリコの旅券を調べ荷物を檢査する騷ぎなどあつたが、結局ピムリコはイギリスに讓歩し、バーガンデイ金塊はイギリス大藏省に貸與される。そしてバーバラとデユピユイが結婚する。地方分權や自治に對する諷刺も面白いが、ただ笑つて見るのも面白い。イーリングらしい目先きの變つた企畫が賞讚される。俳優は前記の連中のほか衣裳店主になるハーミオン・バツデリーが好演。撮影ライオネル・ベインズ、音樂ジョルジュ・オーリツク。

☆厚紙の騎士 "Cardboard Cavalier"

ウオルター・フオードが製作・監督したツウ・シテイーズ映画。ネル・グインがクロムウエル政權をヘコませた昔語りの笑劇化で、ノエル・ラングリーの書きおろし物である。ネルはマーガレツト・ロツクウツドであるが、主役はロンドンで「ハーヴイー」を演じている笑劇俳優シツド・フイールドが扮するシツドカツプ・バターメドウである。亡命中のチヤールズ二世の勅命を受けたラヴレス大佐（ジエリー・デスモンド）が、王黨の貴族た

→恐るべき親達（佛・アリアヌ）ジャン・コクトオが十年前の自作名舞臺劇を映画化したものだが、流石に彼の面目躍如、舞臺に卽くがごとくして舞臺に非ざる映画獨得の細部表現を徹底させ、イヴォンヌ・ド・ブレ、ガブリエル・ドルヂアの壓倒的名演技を得て、息づまるような恐るべきコメディを完成した。クロォス・アップを驅使しての心理描寫の迫力は、映画そだちの演出家たちも顔負けである。ジャン・マレエもいいが、ジョゼット・デエがちよつとおちるのが惜しい。（F）☆☆☆☆

→ジャコ萬と鐵（東寶）原作は知らないが脚本構成の缺陥が、切角の力作を損うことになつてしまつた。ジャコ萬と鐵の對立に劇的な盛上りが缺け、これに側線をなす濱田久我二女性が全然描けていないので、二人の出てくるところが道草を喰つているようにしか見えない。ただ鰊漁場のロケイションは徹底的に生かされ、演出家谷口の才能は三船に對する派手な演技指導とともに充分にうかがうことができる。月形のオーバア・アクトと濱田の拙技はいささか興ざめ。（T）☆☆☆★

←グッド・バイ（新東寶）これは最近の日本映画で最も氣の利いた面白い作品である——といいたいところだが、九仭の功を一簣に缺いたのは殘念千萬。主人公は森雅之君に百パアセントうつてつけ、御當人も大車輪の快演、それに演出の呼吸が合つた場面は近來の珍味だが、音樂にセンスがなくて効果激減。そのうえ別れる女たちはみんな泣くし、ラストも變てこなムスビ。高峰デコ孃がグッドバイして終つてこそ本當のグッドバイであろう。物事は思うようにならぬものですナ。（F）☆☆★

→森の石松（松竹）御存知の石松をパロディ化そうとした製作意圖は實にはつきりしているが、パロディらしい機智はこの映画のどこにも見られない。石松という人物の傳説性は、ここではカリカチュアライズもされていなければ、强いばかりの無智な男の悲劇としての批判もないのである。脚本の人物配置が散漫なことも、吉村監督の演出を多分に空廻りさせたところがある。藤田進は適役だが、性格のつつこみがたりず、三井弘次、朝霧鏡子に名をなさしめた形。（T）☆☆★

→狂戀（佛・アルシナ）いかにもジャン・ギャバンに相應わしいストオリイである。しかし、一ばん大きな興味は、彼に配するにディトリッヒをもつてしたところにある。パリジェンヌとしてはいささかイタにつかぬ感じではあるが、ハリウッド製の近作には見られない生き生きとしたディトリッヒをここに見られるのはうれしい。ストオリイに味が乏しいのが缺陥であるが、ラコムブの雰圍氣描寫は、かなりにこれを補つたといえよう。助演者中、マルゴ・リヨンが傑出している。（T）☆☆★

←戀の人魚（英・ゲンズボロウ）アメリカ産ミスタ・ピィボディの人魚よりひとあしお先きに到着したイギリス産だが、ウロコもなく美人ぶりでもお色氣でもだいぶ落ちるようにお見受けする。お醫者様が連れて來た人魚が、御當人をはじめまわりの男と片端から戀愛關係におちいつて大さわぎになるという喜劇なので、よほどスマアトにやらないと困るが、イギリス流の野暮つたさ丸だしで、いかにも低俗、どぎつくいやらしい。まだ見ぬアメリカ産が戀しくなる所以。（F）☆

嘆きの女王（松竹）

映画スタアのパアテイというのにスタアは月丘夢路孃だけとはこれ如何に。例によつて例の如き唄姫情話で、パトロン↓彼女↑彼氏というお定まりの關係。どうせなるようにしかならぬはなしは、見ていても一向に興がのらないで困る。もうすこし演出に工夫するとか見せ場をつくるとかしてほしい。☆

戀の十三夜（松竹）

祇園情緒でうつとりし、折原啓子の舞妓姿にぼうつとなつたという旦那もいらつしやるが、內容はからきしで、戀をゆずるだのゆずらないだのと、いやもう他愛なさすぎる古めかしい御趣向である。はやくどつちかにしろい、と怒鳴りたくなつてくる。觀光映画もたまにはいゝが、もうすこし面白く願いまつせ。☆

母戀星（大映）

大映十八番の母物が今度は浪曲入りというテでおいでなすつた。なるほどタネはつきないものと感心せざるを得ないが、中味は一向感心できないのは困る。いつもながら棄てられた女が子供を育てて殺人まで犯すという、まるで母性愛はこの一種類しかないみたいである。★★★

びつくり五人男（新東寶）

豆カサギ美空ひばりをかこんで、川田、キドシン、ロッパ等の五人が唄つてふざけるホオカムだが、大の五人男が小娘ひばりにあつさり食われている圖は、正に喜劇の名に價する。この種の映画ももういゝ加減にしないとあきられますよ。★★

旅姿人氣男（新東寶）

エノケンと大河內の顔合せがちよつと興味をひくが、實に低調な企畫で、大河內を旅まわりの劍戟役者に仕立て、丹下左膳その他の扮裝をみせようという。エノケンの扱いなども幼稚きわまる。最近のエノケン映画はなかなか優秀なのが多いが、製作者がちがうせいか、久しぶりの黑星。★★

毒薔薇（大映）

題名のよつて來る所以は、篇中小林桂樹君が入江たか子女史を罵る言葉にあるが、毒氣にあてられるのはお客のほうで、女史の媚態の凄まじさは、集團中毒を起させるに十分である。もちろん篇中人物もあてられ、誰も彼も實にだらしがない。龍崎一郎君などは云うこととすることが矛盾だらけ。こんな寫眞は一本で澤山。★★

スタア試寫室

毎月封切られる内外映画の全部を御覽にならないでも、全部御覽になつたような氣持になれる頁です。

☆は二〇點
★は 五 點

たゞし、別頁「今月の推薦」欄に收錄したものは省きます。

擔當 双葉十三郎
　　 岡 俊雄
漫畫 落合 登

LES PARENTS TERRIBLES

←獨身者と女學生（米・RKO）

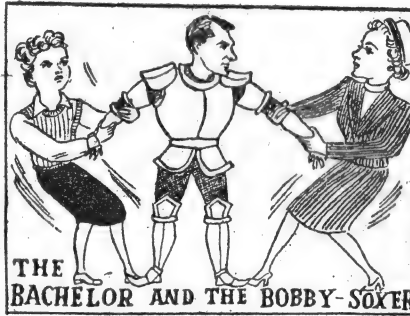
評判のドォリ・シェアリイのプロダクションの賣り出しの頃の一作である。例によつてアイディアのおもしろさでもつている。テムプルの手のつけられないティーン・エイジャアがまきおこしたトラブルで謹嚴なマアナ・ロイの女判事と、女沙汰で評判の絶えない画家グラントが結ばれる喜劇。監督リイスがすこしユルフンで心細いが、當時やかましいティーン・エイジャアのアンファン・テリブルぶりを皮肉つたところが、ピリツとしている。（T）☆☆☆

THE BACHELOR AND THE BOBBY-SOXER

←大草原（米・MGM）

背景は西部劇的であるが、内容は決してそんなものでないことはコンラッド・リクタアの原作によつているからであり、型破りのメロドラマたる興味はかなりもつている。ヘプバアン、トレイシイ、ダグラスによつて構成される三角關係のシチュエイションはいろいろな問題を含んでいるが、總じて、人物がタイプとして動かされているために感銘がうすい。イリア・カザンとしても出來損いで、特にダグラスで失敗している。ストラドリングの撮影が出色（T）☆☆★★

YOTSUYA KAIDAN

オ化ケハ
マダ
出ヌカ？

→四谷怪談（松竹）

うまいうまい大變うまい。が、ちつとも面白くない、という、有難いようで有難くない映画。おなじみの怪談劇を心理的に筋を通そうとした脚本でいささか重くなり、演出も「斷崖」ばりの趣向をとりいれ、木下惠介の腕前は「森の石松」の吉村公三郎も一歩をゆずるうまさと冴えをみせ、正に當代隨一の感をふかからしめるが、なるようにしかならないお話ではどうにもならない。瀧澤修と杉村春子のアカデミイ助演賞的演技が眼立つ。後はおちる。（F）☆☆★

MORI NO ISHIMATSU

コレデ
客ガ
来ヌトハ
不思議デ
ゴザンス

←秘めたる心（米・MGM）

一九四六年度の作品なので、流行のニュウロティクな色彩をからんだメロドラマである。しかし、出來あがつたものはどうにも中途半端な感は脱れない。ジュウン・アリスンをピアノ狂の異常神經をもつた娘に仕立てて、自殺の一歩手前までもつてゆかせるという趣向が、はなはだ無理なところにもつてきて、脚本が説明不充分なため、クライマックスだけ强引につくつたという結果になつた。コルベエル＝ピジョンのコムビは一寸頂ける。（T）☆☆★

THE SECRET HEART

←どぶろくの辰（大映）

どういう製作意圖でつくられたのか、はなはだ納得がゆかない。荒くれ男の純情の對象となる女、それに對立する感傷などはこれつぽしももたない男と女、それに出征中に妻の不義を知つて人生に不信を感じたインテリとその妻。事件の輪廓がはつきりしなくているが、人物はひととおり揃つているは芝居にもなるまい。何がどぶろく三升かわけのわからない中に終る。病氣恢復の田坂監督もただ御苦勞様なことであり、初出演の辰巳もこれでは意味がない（T）☆★★★

殺　人　鬼（松竹）

セミ・ドキュメンタリイ的に銀座界隈の實景をかなり本格的にとりいれた探偵映画。地理的になかなか正確で、銀座人にはちよつと樂しい。そのかぎり成功といえるが、肝心の探偵劇としての構成はチヤチで、特に殺人前後の時間經過の曖昧なること、どんな素人にも疑問を起させること必定。☆☆

深夜の告白（新東寶）

プロオドウエイの當り狂言「オール・マイ・サンズ」の筋書かなんかをきいて、よしそれでゆこうと企畫したみたいな趣向。たゞそれを日本流にちよいとアレンヂしたばかりに、とんでもない山根壽子の高笑い場面などが入ることになり、新派臭たつぷりの一篇になりさがつてしまつた。☆★★★

人間模樣（新東寶）

觀念のお化けみたいな映画である。みなさんが大見得を切つて御演説をぶたれ、こちらは、へえそんなものですか、とぽかんと口をあけてみているだけ。見得をきらないのは上原君だけだが、あまりぼやつとしてフンギリがつかぬ。市川崑が細部の技巧に凝つているのはみとめるが、もうすこし森全體もみてほしい。☆★★★

こんな女に誰がした（東横）

ひどく頭の惡い映画である。過去に肉體を汚された女が戀人と結婚するトタン、靑年は眞相を知つてモタモタし、そこへ昔の男（お定まりの惡漢）があらわれて一騒動。これにまたお定まりの封建家庭論が入つてくるという。いくら演出を丁寧に凝つてみてもはじまらない。努力はみとめるが。☆★★

白　　虎（連合）

どうも前に見たことがあるような映画だと思つたら、「壯士劇場」だつた。こちらは犯罪趣味を加えて、せいぜい心理描寫を試み、千惠藏がそのたんびに熱演するが、そのわりに一向おもしろくないのは、やつぱり中味がつまらないせいでありましよう。どうも御苦勞様。☆★

三つの眞珠（大映）

三人姉妹がひとりのお醫者さんにカアヴして、その中でいちばん作戰のうまい（尤もひとりは病氣で作戰どころでなく）喜多川千鶴孃が成功する。同孃、日高澄子、京マチ子のお三方が三つの眞珠というわけだが、どうもツヤが惡いようで。中途半端な寫眞なり。☆

村部落の出來事である。

村には人のよさ相な中年のドイツ兵（ハインリヒ）がたつた一人駐在しているだけであつたが、米軍が近くまで進撃してきたという噂さもちらほらと噂されはじめていた。ティニア（アルド・ファブリチ）の一家もやかましやの妻君（アヴェ・ニンキ）や、年若い娘（ミレラ・モンティ）とその弟（フランコ・セルピリ）と、村はずれの我が家で平和に暮していた。この家に人眼をしのぶ青年（エルネスト・アルミランテ）がいた。人の好いティニアがかくまつていた脱走兵だつた。ある日、この家にドイツ兵が訪ねてきた。見なれぬ人影に騒ぎだした犬のために家畜が納屋から飛びだして、子豚が一匹見えなくなつた。娘は弟を連れてさがしに行くと木蔭に二人の男がいた。一人はアメリカの從軍記者（ガア・ムウア）で、もう一人は負傷した黒人兵士（ジョン・キッミラア）だつた。娘は兵士が可哀相になり親切にしてやる。その夜大雨になつた。姉弟は二人をこつそり納屋に入れてやつたが、翌日父に發見された。ティニアは黒人兵士のために醫者を呼んで手當をさせた。そして兵士がすつかり傷が癒え元氣になつた頃、三人の外來者は一家と親しくなつてしまう

ある日、三人の奇妙な客を交えて夕食をはじめた一家に、退屈だから遊びに來たと突然ドイツ兵がやつてきた。三人は慌てて居間から姿をかくすが、黒人の入つたのは酒倉だつた。ティニアが早く歸つてくれればよいと思いながらドイツ兵の相手をしていると、酒倉から異樣な物音がきこえた。手當り次第にのみはじめた黒人兵が酔つぱらいはじめたのだ。ドイツ兵が聞き耳をたてる。あれは鼠ですよ、ティニアはそう誤間化しながら、早く酔いつぶしてしまおうと、どんどん飲ませた。黒人兵は到頭扉を蹴破つて部屋にとびだす。一家は蒼くなつたが意外にも敵同志の二人の兵士は抱き合つて踊り出し、外に出てゆき、戰爭は終つたと歌い歩く仕末である。時ならぬ夜半村中は戰爭が濟んだ、平和になつたと大騒ぎになるが、ドイツ兵が寝た頃ようやく眞相がわかつた。黒人達は酔つて馬に乘つたまま、いなくなつていた。この事件がドイツ軍に知れれば大變なことになる——村人は取あえず村を退去することにした。翌朝、二日酔でぼんやりしているドイツ兵は電話で本隊が優勢な米軍を支えきれず退却することを聞いた。ティニアは村人の群を山中において様子を見に村に下りて來た途端に、ドイツ軍の一隊にあつて射たれる。馬で去つた黒人兵士が米軍の一隊と村に到着したのはそれから間もなくだつた。彼は煙草の好きなティニアに土産を抱いてやつて來た。ティニアは好意を感謝しながら息をひきとつた。黒人兵は從軍記者とジイプに乘つた。そして去り難い面持で小さくなつてゆくティニア一家の人たちをいつまでもふりかえつては見つめていた。

★ロッセリーニと共に戰後のイタリア映画界を背負う監督、ルイジ・ザムパのルックス映画一九四七年度作品である。★主演者アルド・ファブリチのほかはほとんど無名の素人俳優が使用されていることは「戰火地帶」と同樣である。★脚本は主演のファブリチとスウソ・セッキ・ダミコ、ピエロ・テリニの共作★撮影はカルロ・モンチュロリで大部分がロケイションによつているが、ロオカル・カラアが美しく描かれている。音樂はニノ・ロオタ★この作品はニュウヨオク批評家協會より一九四七年度の最優秀外國映画に推薦されたほか、各國で受賞している。

平和に生きる

英

大氷原

（南極のスコット）

Scott of the Antarctic

シャックルトンの南極探険隊に參加し、後に、自己の探險隊を率いて出發したが、失敗して歸國した英海軍大佐ロバート・ファルコン・スコット（ジョン・ミルス）は、一九〇九年再度の探險隊の組織を計画した。海軍よりの後援を得られなかつた彼は、妻のキャサリィン（ダイアナ・チャアチル）の理解ある激勵をうけ、資金の獲得のため全國を遊説する一方親友ウィルスン博士（ハロルド・ウォレンダア）の

文化保険

安い掛金
滿期は自由…

富國生命
東京・九段

伊

戦火のかなた

Paisan

これは一九四三年七月十日、シシリイ島に米軍が上陸して以後、イタリアの六つの地域におこつた六つの挿話を描いたものである。《第一挿話》シシリイ島の小さな町に上陸した米軍の八人の前哨兵の一人、ジョオ（ロバアト・フォン・ルウン）は土地の娘カルメラ（カルメラ・サシオ）の案内で古城の廢墟を進んでいつた。ジョオはカルメラと歩きながら故郷や家族の話を通じぬ英語で話した。彼は家族の寫眞を見せようと思つてライタアをつけた途端に、潜伏していたドイツ兵に射殺される。そして、カルメラもまた相ついで無慘に殺されてしまう。《第二挿話》九月、米軍はナポリに進撃した。その戰火に混亂した街を酔歩蹣散たる黒人兵士アリエル（ドッチ・ジョンスン）がいた。彼はイタリア少年（アルフォンシイノ）に街中をひつぱりまわされ、氣のついた時靴を盗まれていた。後日、MPとして勤務中アリエルは、その少年を街頭で見つけ、靴をとりかえしに、少年の家にゆくが、悲慘な戰災市民の假小屋の住居をみている中に、先頃の意氣込みも失せて、だまつてジィプで歸つてしまう。《第三挿話》翌年六月。ロオマが解放されて半年。戰車隊員のフレッド（ガア・ムウア）は酔つて一夜をフランチェスカ（マリア・ミキ）の許にすごした。女は酔つたフレッドがうわ言のように言う、進駐の日、水をのみに行つた家のピアノを弾く娘の話をきいて愕然とした。彼のいう娘こそ轉落する前のフランチェスカその人だつたのだ。彼女はその人ならここに行けば會えると書きおきをのこして去る。翌日、フランチェスカは昔の服裝をして書おきの場所で待つていたが、酔いのさめたフレッドはその紙片の意味がわからなかつた。彼はフランチェスカに會う機會を永遠に失つて新任務地へと前進してゆく。《第四挿話》八月。フロオレンスでは彼我の間に猛烈な市街戰が行われていた。野戰病院の看護婦ハリエット（ハリエット・ホワイト）は手當をしていたイタリア義勇隊員の口から昔の愛人が前線で同志を指揮していると聞き、危險を冒して交戰地帶まで馳けつけた。しかし、彼女が愛人と通りを距てて會つたとき、その人は敵の狙撃彈に斃されてしまつたのである。《第五挿話》平和なロオマのカトリック寺院を訪ねた三人の米從軍僧がいた。寺院では珍客の歡待で賑うが、二人の從軍僧が新敎徒とユダヤ敎徒であると聞き、寺院の僧侶たちは異敎徒を寺に入れたのは罪だつたと夕食を採らない。カトリック從軍僧の大尉（ビル・タッブス）は人々は宗旨を超えてむつみ合わなければならないという《第六挿話》北イタリア、ポオ河附近では、OSS士官（ディル・エドモンズ）の指揮で土地の義勇軍が獨逸軍に砲撃戰を展開していたが不幸にも一隊は捕えられてしまう。米國の軍籍の者は捕虜として收容所に送られることになるが、イタリア人はその場で冷酷な處刑をうけポオ河に投げこまれる。見兼ねた士官がドイツ兵を阻止しようとして、忽ち射殺されてしまう。

戰火のかなた

★戰後、世界映画界最大の關心の的となつた監督ロベルト・ロッセリニが、戰後の第一作「無防備都市」についで一九四七年に製作したもので、前作に劣らぬ絶讃を浴びた作品である。★アメリカの作家アルフレッド・ヘイスはじめ、セルジオ・アミデイ、フレデリコ・フェリニ、マルセロア・パリエロ及びロッセリニが各挿話のシナリオを擔當、音樂はロベルトの弟レンツオ・ロッセリニ、撮影はオテロ・マルテルリである。★出演者は數名の職業俳優を除いて大部分は無名の素人を使用している。★なお原名の「パイサン」はイタリア人に對して呼びかけに使つた言葉で、「同國人」の意をもつている。

伊

平和に生きる

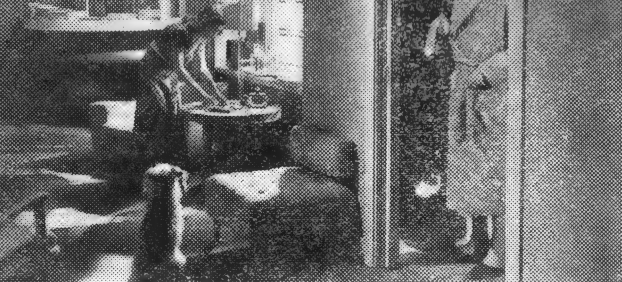
To Live in Peace

米軍がイタリアに上陸した一九四四年の秋。さすがの戰火もここには及ばないようなある山間の農

米

モホークの太鼓

Drums Along the Mohawk

獨立戰争たけなわな一七七七年。アルバニィ市の平和な家庭に育つた美しいマグダレナ・ボウスト（クロオデット・コルベエル）は、明るい静かな秋の日ギルバァト・マーティン（ヘンリイ・フォンダ）と結婚式を擧げると、すぐに夫に伴われて緑濃いモホーク溪谷の彼の農場へ旅立つた。途中の旅は本當に樂しかつた。ただ、ある宿屋でコールドウェル（ジォン・キャラディン）という英國人らしい妙な男に、行先やこれからの計画などを不躾に尋ねられたのは氣にかかつたけれど——

だが農場はラナ（マグダレナ）にとつて思いがけなかつた。荒れた畑、丸太造りの粗末な小さい家、その上一人のインディアンの出現には、後でブルウ・ブラックと呼ぶ夫の友人だと知つて安心したけれど、危うく氣絶するところだつた。馴れない生活に、實家へ帰りたいと思うラナは優しい夫の愛情に包まれて、いつか新しい生活を愛するようになり、やがて初めての子供のことを告げてギルを大喜びさせた。その頃、英國軍が此の溪谷に目をつけているので、十六から六十迄の男子は、總て召集に備えて軍事教練が初まり、事あるときの配置も決められた。

ギルとラナが開墾に精出しているとき、インディアン襲來の報に村人達は要砦に逃げたが、ラナは道中の悪路と激しい衝撃に要砦で死産してしまう。家も畑も一面の焼野原と化し、望みの子供も召されて、今はお互いの強い愛情の他に何一つない二人はマクレナア夫人（エドナ・メイ・オリヴア）の農場に働くことにした。村一番の金持の夫人は、一見ぶつきら棒のようだが優しい心の持主で、ラナは大好きだつた。

扉の蔭の秘密

ある日、英軍がインディアンを煽動して攻撃を始めたと發表されギルも召集されて行つた。ラナはマクレナア夫人に勇氣づけられて健氣に働いたが、やがて療養のため夫人の家に送られてきた負傷者の中に懐しいギルの姿を認めた。

めぐる春、モホーク溪谷の光りは暖く、息子ディヴの生れたラナは幸福に浸る二年を過した。だが實り豊かなこの地からワシントンの獨立軍に食糧を供給していることが英國軍に知れ、再び暗い影が平和な村を襲つた。

村中が大豐作を祝つたお祭りの翌日、例のコールドウェルが五百人のインディアンを率いて村を攻め、マクレナア夫人の家も焼かれた。村人たちは要砦に籠り男も女も力を合せて戰つたが攻撃は激しく、マクレナア夫人は最初の犠牲となつて敵の矢に例れた。夫人は最後の息の下から全財産を愛するギル夫妻に與えると遺言した。味方の彈薬は盡きかかり、最後の望みのディトン要砦に助けを求めに出て行つたジョオも、皆の目前で戰死してしまつた。これを見たギルは決心した。ラナの願いにも彼の固い心は動かず、ギルは夜陰に乘じて出て行つた。ギルは次々に攻撃をうけ傷つく足を引き摺りつつ遂に米國軍に遭うことが出來た。

援兵が要砦に着いたとき、今にも敵はこれを打破るところであつた。女や子供は教會に逃れ、ディヴを抱いて走るラナは氣を失つた。遠く自分を呼ぶ聲に、かすかに眼を開いた。ギルだつた。ギルは優しく抱いて、もう安心だと云つた。外ではまだ激しい戰いが續けられていたが、結局は味方の勝利であつた。

やがて——英軍のコーンウォーリス將軍はヨークタウンでワシントン軍に降服し、長い獨立戰争も終りを告げた。勇敢に働いた彼らの功績は厚く報いられた。

モホークの溪谷に、今度こそ揺ぎない平和の光が滿ちあふれ、人人は勇ましく戰い守り抜いた愛する美しい土地に、再び新しい生活の鍬を入れるのだつた。

★この映画はジョン・フォード（「荒野の決闘」「果てなき航路」）の一九三八年作品で、ダリル・ザナックが總指揮に當り、製作はレイモンド・グリフィス擔當。★原作は歴史小説で有名なウォルタア・C・エドモンヅのベスト・セラア。★脚色は通俗長篇小説の脚色を得意とするソニヤ・レヴィーンとラマール・トロッティ。撮影は往年から名手として知られるバート・グレノン。他に助演者はエディ・コリンズ、ドリス・ボードン、ロジャア・イムホフ等。★原版はテクニカラアである。上映時間一時間四三分。★二十世紀フォックス映画。

米

扉の蔭の秘密

Secret Beyond the Door

参加をはじめ多くの同志を得た。この熱意に動かされた英國政府でも補助金を支出することになり、捕鯨船テラ・ノヴア號を買いうけて一行は一九一〇年六月、さかんな歡送裡にカアデフ港を出帆した。

スコットは極地征服に新様式のモオタア橇を使用するため、前年の冬ノオルウェイでその實驗を試みたとき、先覺者ナンセンより犬橇の有利なことを忠告されたが、彼はあくまでも科學を信じていた。一行がニウジイランドに着いた時、ナンセンの弟子アムンゼンもまた南極を指している報せをうけ、前途に恐るべき競爭者の現れたことを知つたのである。

テラ・ノヴア號は氷海を突破して、エヴァンス岬に到達し、ここにベエス・キャムプを建設した。到着後間もなく、南極は長い夜の訪れがきた。スコット隊はこの間を南極行への準備のために費した。

やがて半年ぶりの太陽が現れ、いよいよ萬般の準備なつた南極への前進がはじまつたのは一九一一年十一月一日であつた。モオタア橇、馬橇、犬橇の一隊がそれぞれ相前後して出發したが、もつとも

南極のスコット

頼みとしたモオタア橇は極寒のため修理不能に陷つて基地にもどつた。スコット隊につきまとう不運はこれからはじまつた。ついで馬橇も深雪に落伍して、馬を射殺しなければならなかつた。そして眼前に高く聳えるベアドモ氷河を前に、犬橇もかえし、人力のみにより南極への最後のコオスにむかつた。最後にのこされた五名は隊長スコット大佐、科學隊長ウィルスン博士、オーツ大尉（デリク・ボンド）、ボウアース大尉（レジナルド・ベックウィス）の幹部隊員とスコットの信望あつかつたエヴァンス水兵（ジェイムズ・ジャステス）である。エヴァンスは橇の修理でうけた傷の凍傷で惱んでいたがこれをかくして隨行した。

一九一二年一月十八日。苦難の末、一行が南極點に到達したとき、すでに三十四日前に到達したアムンゼンの立てたノオルウェイ國旗が立てられていた。失意と落膽——一行が歸路についたとき、最悪の旅がはじまつた。凍傷の惡化したエヴァンスが先ず斃れ、つづいて足の凍傷で動けなくなつたオーツは自ら失踪した。殘る三名は難行の末、前進基地にあと十一マイルの地點で吹雪に行く手を阻まれ、力つきて最後をとげた。

★世界探險史上にその悲愴な足跡を止めたスコット隊の業蹟をえがいた、英・イーリング映画で、ドキュメンタリイ映画に傑作を多く出したサア・マイケル・バルコンの製作

★監督は「愛の海峽」「船團最期の日」のチャアルズ・フレンドの擔當で、極地場面の撮影はスウィスにおいて行われた。★その内容はスコット隊の史實にもとずきウォルタア・ミイドとイヴア・モンタアグが脚本を書いたが、記錄映画としての忠實性を重んじたものである。★音樂はイギリス作曲家中の第一人者ヴォーン・ウィリアムスが當り、撮影は「黒水仙」でアカデミイ賞をうけたジャック・カアディフが當つた。★主演は「大いなる遺産」のジョン・ミルス、チャアチル前首相の孫娘ダイアナ・チャアチルはじめ、新進氣鋭の人々が參加している。★一九四八年製作のテクニカラア映畫。

スタア告知板

ハリウッド・スタアの近況報告

イングリッド・バアグマン——ロッセリニ監督の新作「嵐のあと」のストロムボリ島ロケイションを終つて、ロオマ歸着。ロマンス問題には沈默。

ハムフリイ・ボガアト——ウオナアで「チェイン・ライトラング」に主演中。（スチュアート・ヘイスラア監督、エリナア・パアカア、レイモンド・マツシイ共演）

ジャック・カアスン——コロムビアに借りられて「愉快な男」に出演中。（ロイド・ベイコン監督、ロオラ・アルブライト共演）

ロナルド・コオルマン——「二重生活」以來の新作「シイザアの三鞭酒」にこの夏よりかかる豫定。喜劇である。

ジョセフ・コツトン——ウオナアでベテイ・デヴィスと初顏合せで「森の彼方に」主演中。監督はキング・ヴイドア。「チャムピオン」で賣出したルウス・ロオマン助演。

ジイン・クレイン——イリア・カザン監督の「ピンキイ」を完成。

グロリア・デ・ヘヴン——MGMで、グレン・フオード、ジャネツト・リイと「身も心も」に共演中。監督はカアテイス・ベルンハルト。

マルレネ・デイトリヒ——在歐中。

ジュデイ・ガアランド——アーヴィング・バアリンの「アニイ銃をとれ」に主演中であつたが病氣で中止となつた。

グリイア・ガアスン——前號報告のバデイ・フオゲルスンと結婚した。

ベテイ・グレイブル——ヴイクタア・マチュアと初顏合せで「ウオバシュ街」に主演中（フオツクス。ヘンリイ・コスタア監督）

キャスリン・グレイスン——「あの深夜のキッス」に主演中（ホセ・イトウルビ共演）

デイツク・ヘイムズ——ジョアンヌ・ドリュウと離婚。相愛のエロオル・フリン夫人のノラ・エデイントン夫人も離婚請求中なので、遠からず、二人の再婚が實現の豫定。

キャサリン・ヘプバアン——スペンサア・トレシイと組んで、ガアスン・ケニン作の「アダムの妻」に主演の豫定。

ベテイ・ハツトン——MGMより、「アニイ銃をとれ」のジュデイ・ガアランドの役を懇望されている。

クロオド・ジヤアマン・ジュニア——クラレンス・ブラウン監督で、ウイリアム・フオークナアの小說「沙塵への闖入者」に主演。

ジェニファア・ジョオンズ——七月、遂にデイヴイド・O・セルズニツクとパリで正式結婚

フレッド・マクマレイ——ウイリアム・サイタアの獨立プロで「國境線」に主演中。クレア・トレヴア共演

デニス・モオガン——ジェイムズ・ケインの小說「セレナアデ」の主演者に決定。相手役はヴアリ。（ウオナア）

グレゴリイ・ペツク——六月十七日三男出生故ハリイ・ケリイより名前を貰い、ケリイと命名。

ウイリアム・パウエル——二十世紀フオツクスで「樂隊馬車」を完成。（ベツシイ・ドレイク助演。アーヴィング・リイス監督）

タイロン・パワア——結婚後ずつと在歐中で北アフリカでトオマス・コステン原作の「黒バラ」のロケ中。

ミツキイ・ルウニイ——ウオナアの新進マアサ・ヴイカアスと結婚。

エリザベス・テイラア——前ブラジル米大使の息子ウイリアム・D・パウリイ・ジュニアと婚約發表。

外なかたちで訪れた。國外へ去つてゆこうとするアントニオとシャルドイユとフロランスが酒場で顔を合せたところへ、ジャンヴィエがあらわれた。若いアントニオは、この様な結果を生んだのはジャンヴィエの責任だと激昂し、ピストルの引金をひいた。その瞬間、フロランスはジャンヴィエの前にたちふさがつた。彈丸は彼女の心臓を貫いた。ジャンヴィエは彼女の死體を抱きあげ、茫然とたちすくむシャルドイユとアントニオに、この娘を殺したのは君たち二人だといいのこし、人氣のない土間を歩み去るのだつた。★書卸し脚本、臺詞は「しのび泣き」のシャルル・スパアクと「犯罪河岸」のジャン・フェリイ、ペシミスティクな雰囲氣にあふれている。★監督はジョルヂュ・ランパン。撮影は「双頭の鷲」のクリスチャン・マトラ。音樂はモォリス・ティリエ。出演者はほかにメリイ・モルガン、ジャネット・バッティ、ジェイン・リオン、マルセル・アンドレ、ガストン・モドォ等。★佛・フランシネ映画。

メキシコ映画の入荷

★ ★ ★

「眞珠」により戰後はじめて日本に紹介されたメキシコ映画は、今度CEFを通じて輸入されることになつた。作品のリストを見ると、傑作「眞珠」のスタッフの参加したものがおおいのも大いに期待させられる。内容の詳細は判らないが、とりあえず、輸入を豫定される作品の場面とスタッフだけ紹介しよう。

★ ★ ★

←

☆「かくれたる河」Rio Escondido

原作・監督エミリオ・フエルナンデス。脚色フエルナンデス及M・マグダレノ。撮影ガブリエル・フイゲロア。主演マリア・フエリクス、フエルナンド・フエルナンデス、カルロス・ロペス・モクテスマ。

☆「戀　　人」Enamorada

監督エミリオ・フエルナンデス。撮影ガブリエル・フイゲロア。主演マリア・フエリクス、ペドロ・アルメンダリス、フエルナンド・フエルナンデス。

☆「町 の 女」Pueblerina

監督エミリオ・フエルナンデス。撮影ガブリエル・フイゲロア。主演コルンバ・ドミニゲス、ロベルト・カネドオ。

☆「黑い海賊船」El Corsario Negro

監督シャノ・ウルエタ。撮影ラウル・マルチネス・ソロレス、主演ペドロ・アルメンダリス、フネ・マルロウエ。

☆「魂のない女」La Mujer Sin Aima

監督フエルナンド・デ・フエンテス。撮影ヴイクトル・ヘレラ。主演フエルナンド・ソレル、マリア・フイクス。

兩親について兄を失い莫大な遺産を相續した社交界の花形セリア・バレット（戰後は初登場のジョオン・ベネット）は、華やかなニュウ・ヨォクの生活に空虚をおぼえ、メキシコへ旅立つたが、偶然知り合つたマァク・ラムヒア（「捕われた心」のマイケル・レドグレイヴ）と戀におちて結婚した。彼はあり餘る金を建築の雜誌に注ぎこんでいた。

やがて二人はニュウ・ヨォク郊外のプレイス・クリィクにあるマァクの邸へ歸つた。だが、邸に入つた瞬間、セリアはマァクの女秘書で頬に恐ろしい火傷痕のあるロビィ（「凡て此の世も天國も」「ママの想い出」のバァバラ・オニィル）の狂的な瞳に思わずゾッとさせられる。

が、それよりも尙彼女の心を不安におとしいれたのは、邸全體を包む不氣味な雰圍氣だつた。マァクの先妻の子供というアンドリュウの父に馴じまぬ態度も不可解だつた。

或る日パァティが開かれた。マァクは客に邸内を見せてまわつた。彼はまことに奇怪な趣味を持つていた。邸内の數多い部屋を、犯罪史上有名な殺人現場をそのままにこしらえるのである。一號室、二號室と、次々に殺人室を案内してまわつた彼は、最後に七號室の前に立つたが、この部屋だけはまだ完成していないと云つて扉をあけなかつた。

セリアはいよいよ不安を覺えるばかりだつたが、その夜、アンドリュウがマァクに、お母さんを殺したのはお父さんだ、と叫んでいるのを聞いて愕然とした。そして謎の鍵は七號室にあると直感し、翌日になると夫の引出しから七號室の鍵を取り、村の鍛冶屋で複製を注文すると、マァクがかかりつけの精神病醫を訪れた。

それから二日後の眞夜中、彼女は七號室に忍びこんだ。その部屋は現在のセリアの寢室と全く同じに作られていた。そこへマァクが夢遊病者のように現れて彼女を絞め殺そうとした。

しかし、セリアは、彼が子供時代に姉のカロラインのため暗い一室に閉じこめられたショックから、發作的に人を殺したくなるのだと、彼の異常精神の原因を説いてきかせた。

この言葉でマァクは常人にかえつた。そのとき、かなわぬ戀に狂人となつた女秘書ロビィが火を放つた。辛くも邸を逃れることが出來た二人は想い出のメキシコへと二度目の新婚旅行に出發するのだつた。

★フリッツ・ラング（「西部魂」）のダイアナ・プロにおける第二回監督作品。このプロダクションはラングとジョオン・ベネットと、彼女の夫である製作者ウォルタア・ウェンジャアが主宰するもので、ダイアナはジョオンの娘の名前である。原作はルファス・キングの探偵小説「陳列室第十三號」で、脚本はシルヴィア・リチャアズがはじめて一本立ちになつて書いた。★撮影監督はスタンリィ・コルテスで全篇カメラは動きつづけ、靜止ショットは五パアセント程度しかない。★音樂はミクロス・ロオサ★ユニヴァーサル・インターナショナル四七年度映画。

佛

永遠の争い

Eternel Conflit

初老のジャンヴィエ教授（「最初の舞踏會」のフェルナン・ルドウ）は、口うるさい妻（リィヌ・ノロ）と義母にかこまれてみじめな日々を送つていた。娘もこの家庭の冷たさに耐えかねて河に身を投げて死んだ。教授方針について校長と口論したあげく辭職した彼は、家を出て新らしい生活を求め、サァカスの道化師になつた。一座にはフロランス（「北ホテル」のアンナベラ）という高飛び込みの美人がいたが、彼女は猛獸使いのアントニオ（「海の牙」のミシェル・オークレェル）と大會社の重役シャルドィユ（「ラ・ボエーム」のルイ・サルウ）に愛されていた。アントニオは若くシャルドィユは中年、この二人のちがつた愛に、彼女は板ばさみとなつて苦しまずにはいられなかつた。ジャンヴィエは彼女の美しさに心をひかれ、いつも彼女が高い臺から小さな水槽に飛び込む曲技を幕の陰から見守つていたが、彼女の苦しみを知ると、その解決の道を見出してやろうとした。フロランスはシャルドィユと別れることが一番いゝと思いこんだが、アントニオは彼女がこの金持のパトロンと縁を切るのを好まなかつた。こうした打算的なアントニオに絶望したフロランスは、再びシャルドィユの許へかえろうと考えた。みるにみかねたジャンヴィエはシャルドィユを訪れ、彼の氣持をきいた。彼はフロランスを失つてはじめて彼女の何處を自分が愛したか、何故彼女が自分に必要なのかをはつきり悟つたと、しみじみ語るのだつた。

永遠の争い

が、もうおそかつた。フロランスは二人の男との不純な關係を精算する覺悟をきめたのである。彼女は彼にシャルドィユから與えられた寶石をわたし、自分をあきらめてくれといつた。一方シャルドィユは、ジャンヴィエの言葉に眼がさめ、フロランスを正式に妻として迎えようとした。が、彼女は幸福になれないからと拒わつた。その氣持がわからないシャルドィユは、彼女の拒絶はアントニオを愛しているためだと誤解し、嫉妬に狂つてアントニオを殺そうとサアカスへやつて來た。いまや彼女の心を知つたアントニオは、二人ともフロランスと別れることが、彼女を幸福にする唯一の途だと説いた。そのころ、フロランスもまたひとつの解決の途を見出した。それは死だつた。が、その死は意

「眞晝の圓舞曲」に出演する、田中絹代

吉村公三郎、黒澤 明、谷口千吉監督の次回作品紹介

期待される三つの作品

★良心的な企畫

七月のお盆興行には、松竹系に木下惠介演出の「四谷怪談」、東寶系に谷口千吉演出の「ジャコ万と鉄」、大映系に木村惠吾演出の「大江戸七變化」が出たが、東京方面は壓倒的に「大江戸七變化」に喰われてしまつた。ことに松竹は、「四谷怪談」で一藏おこそうとまで期待していただけに、主脳部の目算違いは大きかつた。當りを狙つた「森の石松」が、意外に成績惡く、つづいて「白虎」がすべり、更に「四谷怪談」が不調となると、會社側としてはあわてるのは當然である。大映が社員にボーナスを出したというのに、松竹では金づまりで四苦八苦の有樣、新東寶は、小唄映画を出したり、弱い週間には「日本敗れたれど」をそえて大當りをとつたり、興行成績は平均して最高といつているから、松竹が目下一番苦しいところである。

松竹近來の大當り映画は、「麗人草」「戀の十三夜」「不良少女」の三本で、このうち、二本が原研吉監督の作品で、松竹としては原研吉監督に期待するところ、非常に大きいわけだ。こういう狀態だから、目下原研吉が演出中の「悲戀模樣」前後篇に大キャストを組んで、一擧に不振をばんかいしようと力を入れているし、また、原監督の場合は、これに次いで「白夜航路」がすでに企画準備されているという。

「森の石松」や「四谷怪談」が、現代劇監督が時代劇初演出という、松竹としては野心的な企画でありながら、興行的に期待を裏切つた

想い出の映画主題歌集

映画ファンのための音楽

ビクターから九月新譜として六枚組のアルバムで「想い出の映画主題歌集」が發賣されることになつた。收められたものはいずれもわが國でヒツトした映画の主題歌十二曲で、古いファンにはなつかしいメロデイばかりであり、戰後のファンには見られざる過去の傑作映画の片鱗を、レコオドを通じて味わつて貰いたいというところであろう。

編集はすべて戰前に發賣された同社のストツク・リストよりの再編だが、今日ではほとんど入手困難な佳作があるのは、ファンにとつて有難いことである。

そのなかで、ヘレン・クラアク歌う「可愛いアイルランド娘」（コリン・ムウア主演のFN映画「戀の走馬燈」より）やジイン・オウステインの歌つた「淋しい道」（ユニヴァーサル映画「ショオ・ボオト」のためジエロオム・カアンが特に書卸した曲）などは、二十年以上昔の吹込みだが、最近の歌手にみられない獨特の味があつて、まことに棄てがたい。歌を主としたものには、ほかにジャネツト・マクドナルド歌う「ヴイリア」（MGM映画「メリイ・ウイドウ」より）がある。數ある彼女の曲のなかでは、一ばんスウイートに歌つているところが、レハアルの原曲の感じを出したものだ。

アメリカのミユウジカル中、最大のコムビRKOのアステア＝ロジャアス映画よりの三曲中、「**キャリオカ**」（「**空中レビユー時代**」より）は曲の有名さの割に**エジウォタアス・ホテル**管絃團の演奏が平凡なのは惜しい。「夜も晝も」（「コンチネンタル」より）はライスマンのアンサンブルを生かした演奏、「頰すり寄せて」（「トップ・ハット」）のドウチン好みのピアノを主としたアレンジは、まずまずの出來ばえであり、リズムがはつきりしているので踊るにも適當である。

スウィンギイな演奏によつたものはMGM映画「桑港」よりの同名の主題歌をトミイ・ドオシイが入れたものは、わりにストレイトな演奏であり、エデイス・ライトの歌が非常によいので、十二曲中でも樂しめる方。

アーテイ・ショウの「インデイアンの戀歌」（MGM映画「ロオズ・マリイ」より）はフリムルの原曲のムウドを殺してホツトにアレンジしているのでこの有名な曲調を愛好する人々には不滿がもたれるかもしれないが、ショウの出世作「ビギン・ザ・ビギン」と同時に吹込まれたものだけに、演奏に大へんなハリキリぶりを見せている。

ベニイ・グツドマンの「今年のキツス」（廿世紀フオツクス映画「陽氣な街」より）は、もとよりわるかろうはずもないが、彼としてはまずアヴエレイジの出來というところ。マアサ・テイルトンが歌つている。

ルムバは一曲だが、最近映画ですつかりおなじみになつたザヴィア・クガァトの「ラ・ボムバ」（パラマウント映画「一九三七年の大放送」より）はノヴエルテイのおもしろさを充分にもつているが、ドロシイ・ミラアの歌がちよつと弱い。

ヨオロツパ映画からは、獨ウフア映画「會議は踊る」よりの「唯一度の賜物」と佛トビス映画「巴里祭」よりの「巴里戀しや」がいれられている。

前者はアイジンガアが歌つたもので、この曲の決定盤である。後者はセラアス管絃樂の演奏で平凡。しかし、ヨオロツパ映画から二曲えらぶとしたら、この撰曲以外には考えられまい。メロデイのよさは決定的なものがある。

以上十二曲、必ずしも平均した傑作集とはいえないが、聽く曲、歌う曲、踊る曲が適宜に案配されて音樂映画ファンには充分たのしめるものがある。このつぎは、新しいヒツト曲でこの種のアルバムを出してもらいたいものである。（T）

HIT PARADE OF THE MONTH

6月のトップは20世紀フォックス映画 "ロオド・ハウス" の主題歌 **"Again"**（ジョニイ・マアサア、ハロルド・アーレン作）です映画ではアイダ・ルピノが歌つたブルースですが、レコオドはドリス・デイ（Col.）, トミイ・ドォシイ（Vic.）, ウィック・デモン（Mer.）メル・トォメ（Cap.）等のいれたものが好評です。

第2位はヴォン・モンロウ（Vic.）の盤により彗星のように賣り出した **"Riders in the Sky"** 非常に特徴のある曲で、ギタア（或いはバンジョオ）で早いリズムを刻んだ、コオラスを伴うノスタルジツクなカウ・ボオイ・ソング。最近ペギイ・リイ（Cap.）のが出て、モンロオの賣行きを凌ごうとしている。この歌は元來男性歌手の歌ですが、彼女は最近好んで男の歌う歌を吹込んでいるのが、注目されております。

第3位は、これも新しい **"A——You're Adrable."** これは B——You're Beautiful, C——You're Cutely とつずくアルフアベツト・ソングで、歌詞の面白さでうけたもの。ペリイ・コモ（Vic.）の歌つたもので流行り出しています。

第4位は前月のトップ **"Crusing Down the River"**, 依然として好評です。第5位も、前月からくりこしの **"Forever and Ever"** とワルツが二曲つづいております。

第6位の **"Some Enchanted Evening"** は、4月以來ブロオドウェイでロング・ランのスタアトを切つた、オスカア・ハマアシユタイン二世とリチャアド・ロジャアス共作のミユウジカル "南太平洋"（ジエイムズ・ミチナアのプリッツア受賞小說 "南太平洋物語" のミユウジカル化）のなかの一曲で、ファンタスティクなバラード。元來は男女のデユエツトで、二つのメロデイから成立したものでペリイ・コモ（Vic.）によつて吹込まれております。6月には Col. から舞臺主演者、メリイ・マアティン、エジオ・ピンザのオリジナル・キヤストによる、このミユウジカルのアルバムが發賣されました。

第7位は先月來の **"Careless Hands"**

第8位はキティ・キャリアン（Mer.）によつて吹込まれた **"Kiss Me Sweet."** で、あまり特徴のないラヴ・ソングですが、歌いやすいので流行つたものでしよう。

第9位は "南太平洋" のなかの一曲 **"Bali Ha'i."** エキゾティックな雰圍氣をつよくもつた曲で、ドラムの三連打による効果と、コオラスを伴つたバラード、歌うよりも聽くに絕好なもの。これもペリイ・コモ（Vic.）がトツプを切つています。

第10位は先月以來の **"Red Roses for a Blue Lady"** が、大分落ちてともかくここにがんばつております。

（レコオド會社略語解） Col＝コロムビア、Cap.＝キャピトル、Mer.＝マアキユリイ、Vic. ＝ビクタア

編集後記

Editor's Corner

★「ジョニイ・ベリンダ」のジェン・オスカア・ワイマン孃は、何でも手眞似で喋言つてしまう。天にましますわれ等の神よ、なんていうのもちよいちよいと腕と手をうごかしただけでわかる。手は口ほどに物を云い、といつたところ。台詞が下手な上にきこえない日本映画など、みんなこのでやつたらいゝでしよう。　双葉十三郎

★「恐るべき親達」の新聞批評の大部分が「恐るべき父親」を描いた映画のように扱つているのには驚いた。母親の倒錯心理が不道德であると非難するのならいざしらず、その映画の主題を誤解したまま批評しては讀者に對して不親切きわまると思う。まさに「恐るべき批評」である。　岡俊雄

★實生活では困るほど泣き蟲のくせに、どんなに悲しい映画をみても泣けないのは、どうしたことでしよう。かなしい戀物語も、所詮現實にくらべたら繪そらごとでしかないからでしようか。決して私はハアド・ボイルドではないのですけれど——。　南俊子

スタア 九月號 第四巻第六號
本號一部 金六〇圓 送料三圓
昭和二十四年八月二十五日 印刷納本
昭和二十四年九月 一日 發行
編集者 發行 小川朋友
印刷者 小坂孟
印刷所 大日本印刷株式會社
發行所 東京都中央區銀座西七の六 株式會社 スタア社
電話銀座(57)〇八〇二番

が、遊佐の居所がわからない。佐藤と村上は、毎日足を棒のようにして、遊佐の足どりを調べて歩く。

遂に遊佐のかくれている簡易ホテルをつきとめた佐藤は、單身のり込み、不意うちをくらつて遊佐のピストルに倒れる。一人となつた村上は、自分のコルトで、尊敬する佐藤刑事まで倒れたので、必死に遊佐を追う。

はげしい鬪爭ののち、ようやく村上は遊佐を捕える。病院でそれを聞いた佐藤刑事は、よかつた、よかつたと村上の手柄によろこぶのだつた――。

なお、黒澤監督は、「野良犬」に次いで、松竹大船で九、十月に三船敏郎主演ものを一本製作することになつている。

★谷口千吉監督の「曉の脱走」

「銀嶺の果て」「ジャコ万と鉄」と好調のすべり出しをした谷口千吉監督は、第三回作品とし、「曉の脱走」に着手した。前二作とも逞しい男の世界をとりあげ、先輩黒澤明監督と同じ方向をたどつている谷口監督は、「曉の脱走」もまた、大陸の最前線に舞臺をとつて、當時の日本軍人の、人間ではなく、動物的な姿を描こうというのである。

「曉の脱走」は、田村泰次郎の原作「春婦傳」を、谷口千吉と黒澤明が脚色し、田中友幸が製作を擔當している。

終戰直前、舞臺は中支の最前線である。三上等兵(池部良)は、移動の途中で、戰線を慰問して歩く慰問團の一行をトラックに同乗させた。その中に、眼の大きな、聲の美しい春美(山口淑子)という女がいた。春美たちは、三上のいる最前線の慰問に來たのである。長い間の兵隊との生活で、春美は、男を男とも思わない、身も心もすさんだ女だつた。

三上は眞面目な兵隊だつた。上官の命令には、絶對に服從するという、典型的な兵隊だつた。男という男の野獸性を、知りつくしている春美は、三上のけがれていない美しい目を見て、ふつと三上に心をひかれた。それは、久しく忘れていた戀かもしれない。だが、三上は春美などは眼中になかつた。

三上の上官成田中尉(小澤榮)は、美しい春美を、わがものにしようと、彼女を追つかけ廻していた。だが、春美は、成田を近づけようとはしない。そして、彼女を敬遠する三上に、愛をうつたえるのだつた。「三上！あたしは、あんたが好きなんだよ。あんただけがあたしのいのちなんだよ！」いくら春美がかきくどいても、三上は知らぬ顔である。

その頃、前線の大隊は敵襲に會つた。三上は勇敢にたたかつた。そして、彼は敵弾に倒れた。戰友は、三上をすてて歸つてしまつた。それを知つた春美は、人のとめるのも聞かず、敵弾をくぐつて、三上の倒れているところまでたどりついた。だが、春美もまた敵弾に倒れた。

三上と春美は捕虜となり、中國の部隊で看護をうけた。傷もいえた三上は、歸りたければ歸つてよいという中國將校のゆるしで、春美をうながして、自分の部隊へ歸つて來た。部隊では、日本軍人のツラよごしだと、みんなからののしられた。だが、春美は、そういう兵隊たちに、「三上は立派な兵隊だよ！弱い兵隊でも、卑怯な兵隊でもないよ！捕虜になつた時は、胸部貫通で何も知らなかつたんだ！」と辯護した。三上は、中隊長(三島雅夫)と小田軍曹(伊豆肇)の取りしらべをうけ軍法會議に廻されて、銃殺になるのはわかり切つている。もうどうにもならない。自由に生きられるところへ行こう！春美は、小田のはからいでそつと營倉の三上に面會し、脱走をすすめた。やつと、日本軍隊の實態を知つた三上も、春美をつれて脱走しようと決心した。ついに、三上は、曉時を狙つて脱走をくわだてた。春美の手を引いて、無茶苦茶に馳け出した。衞兵がそれを發見して、非常ラツパを吹こうとした。それを、小田軍曹はきびしく止めた。「どうせ入倉者を逃がしたからには、お前たちは重營倉、俺は衞戍監獄ゆきだ。三上はお前たちの戰友だつたな……どうだ、出來るだけ遠くまで逃がしてやつちや……三上はつかまれば銃殺だ……あと十分したら非常ラツパを吹け」

十分は過ぎた。非常ラツパはなつた。成田は兵たちに射撃を命じたが、誰も撃とうとしない。成田中尉は自ら機關銃をにぎつて、猛烈に三上と春美を狙いうつた。遂に二人は成田の機關銃で倒れた。

倒れた三上と春美は、しつかり手と手をにぎり合つていた。沙漠の砂が、みるみる二人をおおつてゆく……。

「曉の脱走」で顔を合せる谷口千吉監督(左)山口淑子(中)池部良(右)

のだから、松竹製作本部では、自然、企画に慎重を期するようになるわけだ。勿論、慎重というのは、當り第一という慎重さである。

鍋島の猫騒動や、花形流行歌手岡晴夫の主演映画などがとび出すようになると、一ひねりひねった企画では、會社が危險視するし、プロデューサーが首をひねる。藝術家の方では、常にいい仕事をしたいとのぞんでいながら、益々、實情はそれとかけはなれてくるのである。

このような企画のむづかしいときに、それでも、何人かの藝術家たちによって、いい映画を作ろうという努力は拂われている。今年の下半期の企画をしらべてみても、當りだけを狙ったのではなく、いい映画を作ろうとする何本かの企画がある。それらの企画作品の中で、吉村、黒澤、谷口監督の作品を紹介しよう。

★吉村監督の「眞晝の圓舞曲」

從來女性映画にすぐれた演出技術を見せてきた吉村公三郎監督は「森の石松」という、異う畑をたがやして、興行不振に大いにくさり、また當分女性映画をとると言っている。そして、こんど取りあげたのが、新藤兼人脚本の「眞晝の圓舞曲」である。

この「眞晝の圓舞曲」は、「安城家の舞踏會」と同じ系統のもので、沒落した華族をとりまく男たちの、物慾に醜く狂う姿をとりあげている。

嘗て名門をほこった雨宮家の未亡人鶴代（田中絹代）は、六十八歳の高齢で、危篤の病床にふせっている。生活力のない鶴代は、賣れるものは賣りつくし、今では、おそろしく住み荒された家が殘っているだけである。親類縁者は、誰も鶴代の面倒をみようとはしない。

危篤の枕邊に集った四人の縁者（青山杉作、東野英治郎、千田是也、若原雅夫）は、葬儀の費用を誰が出すかで、大いにもめる。結局先代の妾腹の子、貝原多恵子（井川邦子）をこの際縁者の一人に加えて、彼女を喪主にしようと相談一決する。多恵子は、あやしげなキャバレーに働く女だが、身はけがれても、心は美しい。彼女はいくらかの貯金もある。多恵子はよろこんで、喪主を引き受けた。

ところが、鶴代は奇蹟的に生きかえった。生きかえった鶴代は、時價何百萬圓の寶石箱を持っていると云う。四人の男たちは、掌をかえしたように、寶石ほしさに、鶴代にとり入ろうとする。そして、みにくい男たちの競爭がはじまる。だが、その寶石箱に、本物の寶石はなく、鶴代の初戀の人春宮さま（瀧澤修）からの戀文が入っているだけだとわかり、男たちは、鶴代のもとから去ってしまう。殘された多恵子は、男たちの物慾の醜くさをいきどおり、自分が鶴代の今後の世話を引きうける――というような物語である。

この映画では、珍しく田中絹代が六十八歳の老婆を演じており、他に、吉川滿子、村瀬幸子、坪内美子、東山千榮子、佐田啓二、殿山泰司が出演している

吉村監督は、この映画を九月上旬頃とりあげて、十月、十一月に、同じく新藤兼人脚本の「春雪」を製作することになっている。

「春雪」は、ある私鐵の改札係をしている貧しい女性を主人公に、働く女のよろこびとかなしみを描こうというもので、出演者には、佐分利信、佐野周二、原節子などが豫定されている。

「眞晝の圓舞曲」に出演する井川邦子

★黒澤明監督の「野良犬」

アメリカ映画「裸の町」が封切されて、數多くの刑事物が日本でもつくられた。そして何れもセミ・ドキュメンタリーという、當時流行の映画であるが、一つとして、「裸の町」に比較する映画はなかった。

逞しい男の世界を描いて、もっともすぐれた演出力をみせる黒澤明監督が、おそまきながら、同じ系統の刑事物「野良犬」をとりあげ、撮影に着手した。

「野良犬」は黒澤明の原作を、菊島隆三が脚色したもので、中井朝一が撮影を擔當している。

「野良犬」の本讀みをしている黒澤明監督

新米刑事村上五郎（三船敏郎）は、滿員のバスの中で、スリの女に拳銃コルトをすられてしまった。スリ係の老刑事市川（河村黎吉）に相談すると、スッた女はお銀（岸輝子）らしい。村上はお銀にあたってみたが、彼女はなかなか泥をはかない。村上はお銀をしつこくつけて歩いた。どこまでもつけてくる村上にお銀は根負けして、ピストル屋を探してみろとヒントを與える。村上は根氣よくピストル屋を探して、ピストル屋の手先きになっている白いターバンの女（千石規子）をつかまえる。

その頃、淀橋に強盗事件があり、その拳銃がコルトで、しかも、弾をしらべてみると村上のすられたコルトだとわかる。村上の苦惱は大きい。淀橋事件の捜査には、老練な佐藤刑事（志村喬）が當ることになり、村上もその事件に廻される。佐藤のたくみな訊問で、ターバンの女は、ピストル屋のもとじめが本多（山本禮三郎）という男であることを答えた。本多は大の野球狂だと知り、滿員の後樂園で、たくみに本多をおびき出して、彼を捕える。本多の口から、コルトを貸した相手が遊佐という男であることがわかり、遊佐の追つかけがはじまる。

遊佐の幼馴染みにレヴュー・ガールの並木ハルミ（未定）がいることがわかり、ハルミをしらべる

通俗的な意味では、原節子は結婚をしたらもつと大きくなるだろうとか、戀愛をしたらきつと素晴しくなるだろうとか言う、淺はかな希望もあるようですが、さて、そういう轉機が來たからといつて、現在のあなたの演技が、急にふくれ上るとは、私には考えられません。

原節子の結婚を夢想して、そこに原節子の演技的な成長を期待する——こういう考え方は、とりも直さず、日本の女性の環境がどんなに貧しいものであるかを裏書きしているにすぎません。

ことに女優という仕事が、もつと社會から尊敬されるようになつた日のことを想像してみると、結婚をしろだの、戀をしなさいだのという注文が、どんなに愚劣な意見であるかが分ります。

もしも、あなたの生活態度が、世間に傳えられているように、變化しつつあるものだとしたら、これは大變にいいことで、結婚や戀愛などは二の次としても、私はあなたにその勇氣をおしすすめていただきたいと思います。

聲を訓練して下さい

私は、あなたが、最近の「誘惑」から「青い山脈」へ、さらに小津安二郎の作品へと、ちやんと作品の内容にしたがつて、自分をそこへ投げこんで行つているのを見ていて、甚だ心强いものを感じます。

私たち外部にいてみている者からすれば、スタアは確かに一つの社會的な地位であり、映画會社のなかではそれ以上に「地位」を確立することのできる存在だと思うのですが、そのスタアが自分のでる作品を「選べない」狀態にあるとしたら、これは何という悲劇でしよう。

あなたの勇氣は、そのスタアの悲しむべき地位を徐々に訂正しています。それなのに、あなたの演技者としての弱點は、まだ根本的に改革されていないと私は考えます。

たとえば、聲であります。

以前、杉村春子さんが映画にでた感想をのべたなかに「私には、映画女優がノド先きでセリフを言つているのが淋しかつた。私たちは、セリフを腹からでる聲でしやべつてきたので、非常にやりにくかつた。」という意味のことを述べていたのを覺えていますが、たとえば貴女の聲は、その一例だと私は考えます。天二物をあたえずさ……と言つてあきらめるわけにはゆきません。

あなたの聲は、餘りにも訓練されていない聲であります。一時、長門美保さんのところで聲樂をなさつたそうですが、なぜそれを徹底的に勉强しなかつたのでしよう？　自分の聲が、素人くさいものであることは、自分のでている映画をみればすぐにも判ることです。——たとえ、トーキーが「自然」を第一の條件とするとは言え、あなたの聲には、悲しみと喜びと怒りとの境界線がないのであります。悲しいときでも、うれしいときでも、あなたの聲は、センチメンタルな一本調子であります。私は、それをあなたの最大の缺陷だと言いきつてもいいと思います。

次の峠を越して下さい

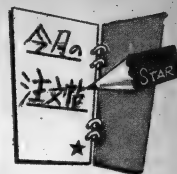
女優として、聲の訓練がいい加減のままにされているというのは、殘念なことです。おそらく、こういう點で、あなたはまだ本當に「女優」になりきるために、自分の余生活を「女優」という目標にむかつてきりかえる自信がないのではありますまいか。

ある雜誌をよむと、原節子は自宅にいるときは、自分で臺所のこともやれば、買物にもゆくということが書いてあります。もちろん、それも結構なことではありましようが、私には、それこそ、あなたが妙に女優生活に照れ臭いものを感じている證據ではないかと思います。

極端な言いかたをすれば、あなたはなにか日本のインテリゲンチヤに特有な照れくささを捨てて、臺所などしなくてもいいから、もつと女優になりきる努力をしてほしいと思います。

「誘惑」のときでもそうでしたが、あの「殿様ホテル」という詰らない映画でも、あなたの出演は、いわゆる「一つの雰圍氣」をつよく作りだしていたことは事實です。その雰圍氣がでてきたという事實は、あなたにとつて、大切な時期がきていることを示すものだと思います。

原節子はいまが一つの峠にさしかかつたところである——と、私は思います。次の峠はすぐ向うにみえていますが、そこを樂に越すためには、ワラジをはき換えることも必要ですし、足の手入れをすることも大切ですが、歩いてゆくための肉體訓練は、もつともつと重要なことです。

帝國臓器
健康で明るく
天然女性ホルモン
オバホルモン
注射・錠劑・パスタ

原節子に注文する

緒崎勝一郎

★原節子は、すでに一つの雰囲氣をつくり出す女優になつた。しかし、まだ色々と注文したいことがある。

日本女優の表現を持つて下さい

「新しき土」という映画をとつたあと、あなたは、幸運にもヨーロツパへわたる機會にめぐまれたのでした。もう十年も前のことになりますが、このことが、まだ若かつたあなたに、不思議なワクをあたえて、それが暫くのあいだ世間に通用していたことは事實であります。

そのワクとは、じつに俗つぽいもので、たとえば、原節子の顔は外國人に好かれる顔だとか、あるいは、ヨーロツパへ行つてきてから、原節子は生意氣になつたとかいうものでありました。美しい顔をもつているあなたが、まだ若くして、こういうワクにはめられて、世間の評判のまえに立たされたということは、考えてみれば、ずいぶんと冷酷な目にあつたものだと思います。

しかし、正直に言つて、そういうワクをうち破るためには、あなたの演技は若すぎたのでした。私にいわせれば、まだまだ演技からは遠いものでした。演技以外に、世間の俗見を拂いのける手段をもつていないのが、俳優であるとするならば、原節子という女優は、ずいぶん苛酷な目にあつたわけです。

あれから十年餘りの年月をへた最近になつて、あなたは始めて、そういう俗見を拂いのけることができるようになつたのです。この十年の歴史は、おそらく、あなたにとつて最大の苦闘期であつたと思います。

ここまで來た以上、あなたは、もう、自分が外國人に好かれるだろうとか、あるいは外國の女優にたとえられるとか、そう言つた常識的な映画ファン好みにとらわれずに、まず何よりも先きに、すぐれた「日本の女優」になることに心掛けていただきたいのです。あなたは、もつともすぐれた日本女優の表現をもつことで、將來の世界性を待ち望むことが可能となるのではないでしようか。

もつと勇氣を持つて下さい

さいきん、不思議と、ジャーナリズムはあなたの生活態度が變つてきたということを傳えているように思われます。その傳え方は多分にゴシツプ的なものではありますが、どうやら、その底に在る何物かが、私には分るような氣がします。つまり、十年の俗見を拂いのけた以上、あなたの生活は、勇敢に變つてゆくのが當然ですし、私たちは、ことに女優のそういつた變化、進歩、成長を、じつは心のどこかで待ちあぐんでいたのであります。

永遠の貧乏詩人・三井弘次

★三井弘次のワキ役としての味は、もつと高く評價されるべきだ！

右から三井夫人、三井さんの令弟夫人とその坊や、三井さん

人間層を描く。これが彼の特異な存在となるのだ。しかし、にくまれる不良青年にふんすることで、三井弘次の俳優術がねられてきたというのは、どういうことだろう？

ぼくは、三井弘次が、貧乏詩人のような純粋な精神をもつていたからではないかと思う。不良青年や與太者の世界に、性來の人間的な弱點をよみとつているのではないだろうか。ぼくは、いまの與太者が、暴力の代表者と目されている現實には、大いに不滿である。ぼくたちはファッショの再來はもうゴメンである。しかし、三井弘次のふんする與太者は、ただ與太者だということにとどまつているとは思えない。そういう役柄のなかで、三井弘次自身が成長してきたことの方が問題なのだ。

かれがもしそういう人間たちを、外部からただなでまわしていただけならば、今日の持味は生れてこなかつただろう。かれは、きつと、それらの社會からはみだした人々や下積み生活者のなかに、詩を感じてきたのではないだろうか。ぼくは、誇張でなく、そう思う。

彼の味は出しやばらぬワキ役にある

三井弘次の演技は、言うまでもなく、大船映画のなかで形づくられたものである。いわゆる小市民的な世界を扱つた映画が、かれの素養の下地である。都會の下町のなかから拾いだしてきた人生の斷面圖、それがいつも三井らワキ役俳優にあたえられた條件であつた。だから、演技というきびしいものよりは、どちらかと言えば、一種の雰圍氣描寫が使命であつたそこに、かれが「出しやばらぬワキ役」となつた一つの素因がある。

また、もう一つには、高杉早苗や高峯三枝子や木暮實千代らを生んだ大船映画の都會趣味が、三井らワキ役者に、ウイットのあるお芝居をやらせるようになつた。かれらは、いつも、美しいお孃さんを相手の芝居をしなければならなかつた。それには、控え目な芝居が必要であつた。相手は否でも應でもスタアという地位に祭りあげられなければならない存在なのだ。

相手を食うという演技をしない三井弘次が生れたのも必然である。

かれの面貌は非常に個性的である。

その聲は、一種のサビがあつて、トーキーには、異樣な効果をもつている。ひびきがあるのだ。

「なんでえ、この野郎……」

そんな調子でタンカをきつても、どこかに淋しそうな聲の餘韻がある。

かれの會話は至つて自然である。ぼくは同じワキ役から伸びていつたひとのなかで、志村喬や菅井一郎なども注意してみるが、映画俳優のセリフまわしとすると、三井弘次の方が、これらの人よりもずつと自然で、芝居ッ氣がない。だから、セリフのテムポが早いのだ。

かれは役の理解にかけては、たいへんに的確で、しかも謙遜のように思われる。まえにも書いたように、當て込みがないし、それでいてその作品全體をつかんでいる。よく、ペロリと舌をだして唇をなめまわすようなことをしたり、ハンチングを少し上にずらして、じろりと相手をみるようなシグサをするが、それが至極あつさりと受取れる。カットの變る瞬間に、そういうシグサが一種の「落ち」になつているひとが多いなかにあつて、三井弘次は珍しく、そういうものを身につけていない。

ぼくは主として、三井弘次のいい面ばかりを列擧してきたが、本來ならば、立派に「助演賞」でももらつていいはずの彼が、そういう作品に使われて十分に腕を發揮しきつていないのを悲しく思つたからだ。

ここからさきは、プロデューサアの眼力の問題である。

ぼくはワキ役者のなかに詩を發見するだけで嬉しい。三井弘次が俳優として、永遠の貧乏詩人であることを望むゆえんだ。

ユキワリミン
驚く程よく効く評判！ニキビそばかす色黒の方御試し下さい

尾崎　宏次

彼はワキ役の本領を體得している

ぼくたちは、映画のワキ役の俳優をもつと大切にしなければウソだ。スタアの演技もいいワキ役をえなければ冴えるものでない。そのいい例は、少し古くなるが、歌舞伎に例をとれば、先代羽左衛門といまの荒次郎だつた。羽左の河内山には荒次郎はなくてはならない役者だつた。歌舞伎を愛した人は、羽左と同等に荒次郎を愛した。

右――夫人と一緒の三井さん　下――書斎にて。

映画だつて、理屈はおなじわけなのだが、みんながスタアばかりに熱をあげすぎるので、歌舞伎の場合のような、ワキ役者に對する愛情をつくれないのである。映画が商品となれば、この傾向はますます强くなる。

ぼくは、そういう意味で、三井弘次の存在を、もつと明確に位置づけていいと思う。

ある画家は「森の石松」をみてきて、「あの三井秀男いいね。彼が出てくるんですつかり雰圍氣にまきこまれた。いい役者だな。」と、獨りで喜んでいた。この画家にとつて、三井弘次よりは、改名前の三井秀男の方がずつとなつかしかつたのである。

三井弘次は、もう四十だ。この年まで彼が孜々としてワキ役俳優としてつとめてきたことを、ぼくは、この上なく愛すべきことだと考える。かれはワキ役の本領をちやんと體得しているのだ。どんな映画にでても、三井弘次は、出しやばつたことがない。かれはちやんと自分の定位置にいて、その使命を果している。ただそれだけなのだ。それだけのことを、孜々として四十まで續けてきたのである。

ワキ役者としてのコンクリートな觀念が、三井弘次の存在を非常にゆるがし難いものとしている。人生の尊厳すら、ぼくは感ずる。

彼は貧乏詩人のように純粋である

改名前の三井秀男を、ぼくたちは大船の安直な三枚目役者としてみせられてきた。安部、磯野などのワキ役俳優といつしよに、かれも、三枚目の仕事をずいぶんした。松竹へ入つたのが大正十三年だから、映画俳優としては、古い方だが、こういう地道な役割は、結局、二十年餘の歳月をへなければ、光澤を放つようにはならないのだ。

たとえば、三井弘次が演ずる役をみると、それは決つて、御用の役人であり、不良であり、チンピラであり、カフェーのボーイであり、要するに餘計者である。そういう端役が、一つのドラマのなかで、端役でなくなるのは、三井弘次が、端役の定位置をまもるからである。建物にたとえるならば、かれはネダであろう。ネダのくさつた家は危険である。ネダの材木がにせものだつたら、家の土臺は長持ちしまい。

御用の役人だとか、現代劇における不良などという役は、いわば、社會の下積みと目される人間である。

おなじワキ役でも、坂本武や河村黎吉のもつている領分は、もつと人のいい世界である。

三井弘次は、いわば、にくまれる

今月の質問室

なつてみないと解りませんわ。御免なさい。

問 戀愛至上主義ですか？

答 厨川白村の「ラヴ・イズ・ベスト」には共鳴しますけれど、實際には、まだそう思わせる相手にぶつかりませんから解りません。

問 どんな男のタイプがお好きですか？戀人として、友人として。

答 戀人のタイプは、戀人となつたらその人のタイプが一番好きだと云うことになりますわ。友人のタイプとしては第一條件は肌の合う人。そしてタイプとしては色々のタイプの人が必要じやないかと思いますの。

問 貴女は泳げますか？

答 これは内緒ですけど、辛うじて犬カキで二間位。去年、生れてはじめて泳いだのですの。

問 映画女優の中では誰と親しくしていらつしやいますか？

答 中國の女優さんの周璇さんとは親しいお友達です。

問 御家族は？

答 兩親、弟二人、妹三人、女中一人、猫三匹、これが山口家の全員です。

問 姉妹喧嘩をなさいますか？

答 日本語、北京語、英語のいりみだれる華華しい喧嘩を御想像下さい。

問 貴女は英語が達者だそうですけど、どういう風にしてマスターされましたか？また他には何語を話されますか？

答 英語はアメリカのさる少佐の奥様について正式に習いました。他に北京語。ロシア語は音樂の先生がロシア人でしたし、お友達にもロシアの方がいられ、日常會話程度です。

私は大變な利己主義なんです

問 撮影のない時はお家でどうしてお暮しですか？

答 本を讀んだり、お友達をお呼びしたり、お臺所をやつたり、出來るだけのんびりと過します。

問 お洗濯をなさいますか？

答 小さい物や下着類だけ。

問 男或いは女の何處に魅力を感じますか？たとえば聲とか顔とか。

答 男の場合は頭。あら可笑しいかしら？女の場合は矢張り頭のいゝ人に一番魅力を感じます。

問 御自分の缺點を御存知ですか？

答 大變な利己主義なんですのよ。なんでも仕事中心主義で、あとは二の次になつてしまうのです。いけないことだと思つてはいますが。たとえば徹夜の撮影でクタ〳〵に疲れているような時は、どんな來客があつてもお目にかからず寢ているなどは、そのいい例ですわ。

問 寒がりやですか？暑がりやですか？

答 寒がり屋の暑がり屋さんです

問 今までに御旅行された内で、何處が一番お好きですか？

答 北京は旅行地ではありませんけれど、何といつても一番好きな土地ですし、日本では秋、十月十七日の紅葉の一番美しい日光中禪寺湖など好きでした。

問 最近お讀みになつた本で感銘をうけられたものは？

答 ジャン・ジャック・ルソーの「孤獨なる散歩者の夢想」。

問 お料理が、お上手だそうですが、何がお得意ですか？

熱海温泉

小川旅館

Tel. 本館 2002 2003 ・別館 2075 3747

四十八の質問を出しました

山口淑子さんお答え下さい

國際人であり、もつとも教養のあるスタア山口淑子さんに、色々の質問にお答えしてもらいました

私は政治家になりたいと思つていた

問 女學校時代、自分の將來についてどうお考えでしたか？

答 政治家になりたいなんて思つたものです。その頃、中國の政治家達の出入りが私の周圍には多かつたものですから、日本と中國問の問題を身近に、聞いたり、感じたりしていて、そんな空氣の中で政治に關心を持つてしまつたので、す。

問 映画はいつ頃から御覽になつたのですか？

答 女學校時代から、アメリカ映画と中國映画は觀ていました。けれど、日本映画はずつと後になつてから見だしました。

問 印象に殘つている映画は？

答 上海で見たツアラ・レアンダア主演のチャイコフスキーの傳記映画「さんざめく舞踏會の夜であつた」と云うドイツ・ウフア映画ですわ。チャイコフスキーの「悲愴交響樂」が開巻からラストまで豪壯な演奏ぶりで、あのパセテイックなメロディによつて綴られたツアラ・レアンダアの悲劇の主人公ぶりと、もの凄いアルトはまつたく、今想つても壓巻と云うより他はありません。

問 現在の御自分に充分滿足していでですか？

答 相憎そこ迄は、未だおめでたく出來ておりませんわ。

問 演りたいオペレットは？

答 邦人の創作物をやつて見たいと思います。あちら物を風俗習慣の違う日本人が邦譯歌詞でやる不自然さは、やる者自身がまるで借物で聽衆にアッピールする筈はありませんもの。作詞、作曲、歌手、聽衆がお互いに理解出來るものと云うと、どうしても邦人の作曲に依るしかないと考えます。

問 クラシックな音樂でお好きなものは？

答 チャイコフスキーの「悲愴」などは矢張り好きです。

問 輕音樂でお好きなものは？

答 「タブウ」「パルレ・モア・ダムール」など。

問 クラシックでお好きな歌は？

答 マスカニーの「カヴアレリア・ルスチカナ」の中のアヴエ・マリア。プッチーニの「トスカ」の中の「歌に生き戀に生き」その他澤山あつて擧げきれませんわ。

問 お好きな歌手は？

答 クラシックではリリイ・ポンス。輕音樂ではダイナ・ショア、ビング・クロスビー、淡谷のり子さんなど。

會つてみたい人は、パール・バック女史です

問 貴女が街を歩きながら、いつも口づさまれるメロディは？

答 歌のお稽古のゆき歸りは、その時敎えて頂いている歌を。それ以外の時は山口淑子自作の勝手なメロディを。

問 アメリカへ行けたら誰に先ずお逢いになりたいとお思いですか？

答 パール・バックです。中國をよく御存知のあの方にお目にかかつてお話をしてみたいものです。

問 將來結婚なさるとして、どう云う生活が理想ですか？

答 相手によりますからその時に

「スタア」★★★ ベスト・セレクション

この投票は本年一月から本號締切までに鑑賞し得た作品について行つたもので、今後毎月締切までの作品を加えて順位の改訂を行い、十二月末日までの作品に至つて、年度のベストを決定いたします。

選衡委員は次の通り（五十音順） 飯島正、上野一郎、岡俊雄、尾崎宏次、林勝俊、旗一兵、双葉十三郎

★作品

第1位 青い山脈
第2位 お嬢さん乾杯
第3位 ジャコ萬と鐵
第4位 靜かなる決鬪
第5位 森の石松
第6位 女の一生
第7位 グッド・バイ
第8位 わが戀は燃えぬ
第9位 春の戯れ
第10位 風の子

★監督

第1位 木下恵介（「お孃さん乾杯」）
第2位 今井正（「青い山脈」）
第3位 谷口千吉（「ジャコ萬と鐵」）
第4位 吉村公三郎（「森の石松」）
第5位 黒澤明（「靜かなる決鬪」）
同 龜井文夫（「女の一生」）

★主演女優

第1位 原節子（「お孃さん乾杯」）

第2位 高峰秀子（「グッド・バイ」）（「春の戯れ」）

第3位 田中絹代（「わが戀は燃えぬ」）

第4位 水戸光子（「わが戀は燃えぬ」）

第5位 三條美紀（「風の中の姉妹」）

★主演男優

第1位 三船敏郎（「ジャコ萬と鐵」）

第2位 森雅之（「グッド・バイ」）

第3位 佐野周二（「お孃さん乾杯」）

第4位 宇野重吉（「春の戯れ」）

第5位 小澤榮（「深夜の告白」）

★女優助演

第1位 千石規子（「靜かなる決鬪」）

第2位 木暮實千代（「青い山脈」）

第3位 若山セツコ（「青い山脈」）

第4位 朝霧鏡子（「森の石松」）

第5位 久我美子（「朱唇未だ消えず」）
同 飯田蝶子（「森の石松」）

★男優助演

第1位 藤原鶏太（「青い山脈」）

第2位 菅井一郎（「わが戀は燃えぬ」）

第3位 志村喬（「靜かなる決鬪」）

第4位 三井弘次（「森の石松」）（「嫉妬」）

第5位 進藤英太郎（「ジャコ萬と鐵」）
同 堺駿二（シミキン映画）

答 中華料理の炸醤麺（チャーヂャーミエン）御馳走しましょうか？

問 お好きな花は？色は？

答 花はガーディニア（山梔）。好きな色は黒。

問 大變な泣き蟲だそうですね。

答 感激屋なんですの安つぽくすぐ涙がこぼれるので困ります。

私のニック・ネームは金魚です

問 外國映画で御自分の好みにあつた女優さんは誰ですか？

答 ベッティ・デヴィスです。

問 リリアン・ギッシュ、クララ・ボーを御存知ですか？

答 名前だけ聞いておりますが、映画をみたことはございません。未だ子供でしたもの。

問 ハツ・ケエキはお好きですか？

答 好きですけど、今は街でおいしいハツ・ケエキは食べられませんわね。この間、あちらの奥様がそれはそれは美味しいのを御馳走して下さいました。

問 このわた、雲母、いくらの類はお好きですか？

答 このわたと生雲母は大好物なんですの。

問 お酒は召しあがりますか？煙草は？

答 すこおし頂きます。煙草は極くまれに。

問 貴女の朝食のメニューは？

答 トースト、ハム・エッグ、珈琲。時々おみおつけや、フルーツ・ジュースなど飛入することもあるんですのよ。

問 お嫌いな召し上りものは？

答 トマト。蕃カラでしよ？

問 お好きな小說家は誰ですか？

答 ロシヤが何といつても一番。チエホフ、トルストイ、ツルゲーネフ等。フランスではモーパッサン、日本では林芙美子さんでしようか。

問 スランプの時はどうなさいますか？

答 グングンとそれに徹底的に突込んで行つて、たとえば、らせん階段狀をグルグル登りつめて頂點まで苦しみぬくか、或いは一番下のとことんまで落ちて行くかして、そこまで行つて始めて何か開けた境地を獲得します。一時のまぎらしは絕對に駄目ですの。

問 一生日本にいらつしやいますか？

答 ノーとお答えしましよう。コスモポリタンが身に泌みているのかもしれませんわね。

問 貴女のニック・ネームとペット・ネームは？

答 ニック・ネームは金魚。眼が大きいからですつて、失禮ねエ。ペット・ネームは親しいお友達の間ではシャンランと呼ばれています。

問 若し男に生れていたら何になりたかつたとお思いですか？

答 情熱的な革命家かしら。

問 映画でやりたい役は？

答 カルメン。

問 男女同權についてどうお考えですか？

答 男女同權なんて騷いで云い合つている内は未だ未だとても不可能なことだと思います。

問 映画、音樂以外には何に興味をお持ちですか？

答 政治ですの。女らしくないかもしれませんけれど、とても關心が强く、それも日本の政界は餘り興味がないんですの。中國や、國際關係に於ける外交政治の機微などには大變興味を持つています。

問 婦人代議士の候補者におされたらなりますか？

答 あら、婦人代議士にはなりたくございませんわ。もつと日本の政界がクリヤーされなくてわね。少し生意氣かしら。

問 宗教に就ておもらし下さい。

答 無宗教です。カトリックに一時、關心を持つたことはございましたけど、戒律の多い宗教は私の性格とは相容れないような氣がしましてね。

三宅邦子

「スタア一問一答」次號は

皆さんのお希望スタアのお名前をハガキで編集部までお知らせ下さい。

木下監督の手で育った女優

松竹の少女歌劇から出た映画スタアと言えば、戦後では、幾野道子や空あけみがいる。空あけみはすぐに山内明の夫人になつてしまつたが、その表情や姿態は、従來の映画女優にないものを持つていたので、期待されていた。こんど大映と契約した曉テル子も松竹歌劇の出身である。

これらの先輩は、桂木洋子とちがつて、歌劇時代から一つの特色を、もう發揮していた。その特色が、少女歌劇というリンカクのなかでは、先が知れているというものであつた。だから、これらの先輩たちは、将來をみずから映画に托したといつてよかつた。

桂木洋子は、それとはちがつて、ガゼン客席の映画監督にみいだされた少女なのである。よく映画のストーリイにあるようなことが、彼女の場合は、ほんとうに自分の上にふりかかつてきたのだ。言うところのラッキー・ガールである。

桂木洋子は木下監督の手で、映画経歴の第一頁を作つてもらつた。「肖像」から「破戒」のお志保まで、さらに「お嬢さん乾杯」の一役まで、ほとんど木下監督が、彼女をキャメラに馴れさせた。

木下監督の作品のなかでは「破戒」のお志保が、彼女のいちばん大きな役だつた。

お志保はこのストーリイのなかにでてくるたつた一人の少女で、新劇が上演したときには、山口淑子がこの役を演じ、いささかバタ臭いという批判をうけた。

桂木洋子の演じたお志保は、おそらく、劇の内容を、深く理解できているとは言えなかつたと思う。「破戒」のなかに呼吸していた桂木洋子は、なにかに戸迷いしていた。時代の距離などもあつて、彼女の表情は、なにか思いきつたものを持つていなかつた。ただ、木下恵介もある映画雑誌に書いていたように「――ぼくにも良く判らないほど、不思議な子である。馬鹿ではなく、頭はいい。だから、年と共に不思議な魅力を持ちだすのではないかと思う。」そういつた希望をもたせるだけの、勝氣なニュアンスだけは感じさせた。

レヴュー畑から出ている桂木洋子にとつては、それがせいぜいであつたのも無理はない。

彼女は平凡な市民の子である

どうにか、その勝氣が具體的にあらわれだしたのは、「フランチエスカの鐘」で、主役の不良少女にふんした時であろう。まえにも書いたように、「破戒」のお志保は、桂木洋子には少からず遠い世界であつたが、「フランチエスカの鐘」における桂木洋子は、現代の不良少女を、身近なものとして理解したのであろう。大曾根監督の演技指導はもちろん非常に集注的なものではあつたが、それにしても、桂木洋子がそれに答えられなかつたら、なんの意味もなくなる仕事であつた。

髪をばらばらにして、叫び、どなり、逃げまわる少女のなかに、桂木洋子は、はじめて、周圍に見える人間をあらわすのが、自分の仕事だということを知つたようなものである。

こういう點に、ぼくは一つの社會的な環境の及ぼす影響をみるような氣がする。

たとえば、おなじ少女歌劇でも、寶塚と松竹のちがいが、こんなところにあるのだ。寶塚出身のスタアには、たとえば轟夕起子にしても、月丘夢路にしても、こういう不良少女は似つかわしくない。

彼女たちは温泉街寶塚のなかで育つた影をもつている。

ところが、松竹歌劇は、浅草が本城だ。都會のごてごてとした世界である。與太者も、酔つぱらいも、パンパンも、浅草にはたくさんいる。松竹歌劇の生徒はそれを始終見ている。

だから、空あけみにしても、桂木洋子にしても、二種の都會の隅にある人間をつかむことはうまいし、どこかに、浅草でそだつたようなペーソスがあるのだ。

桂木洋子はレヴュー出身者とはいえ、まだ歌つたり、踊つたりする映画をとつていないが、これは無理をしてそんな映画にでることはあるまい。

まだ二十歳の女優なのだ。演技の基礎をつくることの方がはるかに大事だ。ものの理解力を深めることの方が、よつぽど大切である。

ぼくは、しばしば遅い省線電車のなかで桂木洋子が、乗つているのを見かけたことがあるが、小柄で、目だけがちよつと特徴のあるほかは、平凡な一女性にみえた。少しも女優くさくない女優である。

ここに桂木洋子の女優としての特色があるのではないか。彼女は都會の子であり、平凡な市民の子であればいいのだ。出發點はそこにある。

富士カラー
プリント

富士カラーフイルムから
美しい色印画が出来ます。

富士寫眞フイルム株式會社

都会の子・

桂木洋子のスケッチ

木下惠介監督に發見されたラッキー・ガールル桂木洋子のスケッチ。

突然映画スタアになつた少女

桂木洋子は體のわりに顔が小さい。チンのような顔つきである。舞臺では、結局小さな顔は損で、客席からみると、ほとんど注意をひかないものだ。

うそだと思つたら、舞臺女優と映画女優がいつしよに撮つた記念寫眞をみてみるといい。きまつて映画女優の方が、體のわりに顔が小さいことが分る。

桂木洋子も松竹少女歌劇にいたころは、ほとんど目立つ存在ではなかつた。それが、まるで、夢物語のように、女王さまのロマンテイツクなお話のように、突然、映画スタアにひつぱりあげられた。發見者はいうまでもなく、いま松竹で注目されている監督木下惠介である。

桂木洋子はまだ二十の少女だ。東京の四谷で、昭和五年に生れた。戦争中に四谷の第三國民學校を卒業すると、その年に、麹町女子商業にはいつた。ここをでたら、どこかのオフイスにでもつとめて、家計をたすけるつもりだつたが、偶然は、彼女を松竹の少女歌劇へいれてしまつた。そして、終戦後にはじめて初舞臺をふんだ。

なにしろ顔の小さい、茶目ツ氣な桂木洋子だ。松竹歌劇の根據である浅草の國際劇場の舞臺は、彼女にとつてメチヤクチヤに大きすぎた。横にひろい舞臺、四千人を收容する劇場——これでは、桂木洋子はワンサ・ガールとして埋もれてしまつたかもしれない。ライン・ダンスは國際劇場の名物ではあつたが、このだだつぴろい劇場でのライン・ダンスでは、個人の技術や存在は、泡のように消されていた。

そこへ、ある日「女」のロケにきたのが、木下惠介監督だつた。

「あの子は何ていうの？」

「桂木洋子。本名は富澤佳惠つてんですがね…いい子ですよ。」

「うん。生れは？」

「東京です…」

こんな簡單な會話が、彼女に幸運をもたらしたのだ。ライン・ダンスの一員では特に目立つ存在でもなかつた桂木洋子は、やがて銀幕で、その小さな顔を大きく寫される運命にめぐまれることになつたのだ。

るし、少しはなれると、演劇評論家北村喜八の夫人である村瀬幸子も籍をおいている。一座には入っていないが、小澤榮の夫人は山野美和子という聲樂家で、小澤はピカデリー劇場で「フイガロの結婚」に出るとき、この妻君から歌の教示をうけたというゴシツプを殘している。また、ずつと若い層では「黄色い部屋」や「あゝ荒野」で抜擢された木村巧は、邦枝完二氏の息女をワイフにしている。

こんなことはすべて餘談だが、俳優座というピラミツドの頂點に立つているのは、青山杉作と千田是也だ。この二人が劇團の親和力をつくりだしていて、それを實行する第一線人が小澤や東野である。いつか演技のことで東野英治郎にくいさがつていつたら、「いや、ぼくたち自身、いま素ッ裸になつたところですよ。ぼくたちは新しい演劇の傳統の基礎を作りたいんだ。ぼくたちが作らなければ、後進の若い人たちは何を土臺にしたらいいんだろう？」と意氣まかれたことがある。

また小澤榮が、前の榮太郎という名前をすてたのについて「お前は映画へ出すぎて、芝居が下手になつたぞと言われたら、くやしくてね、心を入れかえるつもりで太郎を切つて捨てたのさ。」と説明されたことがある。

このひとたちは、舞臺が無精に戀しいのだ。

しかし、映画の演技についても異常な關心をもつていて、結局は映画と演劇の交流をしなければ、現代劇は生れないという人もいるが、千田是也が「映画に出て感ずることは、いかに自然に表現するかということが第一だね。」と言つた言葉が、簡明に結論をだしているようだ。かれはいまも「透明な演技」ということを主張している時期である。

左より（前列）東野、村瀬、岸、東山、青山（後列）小澤、楠田、千田

書生にかえりつつある俳優座の同人

中堅級では、さいきんよく物を書いている永井智雄や、女優では、以前日活多摩川の研究生だつた楠田薫らが注目されているが、まだ、どこからどんな新人がとびださないとも限らない。すでに多くの演劇評論家は、千田是也の指導力がもつと若い俳優にむけられるべきだと言いだしている。そればかりでなく、俳優座が好調の波にのつてくるに從つて、イデオロギーの上からも批判が起りつつあるのは事實だ。

ただ千田是也という非常にすぐれた演劇の實際家が、そういうことに迷わされないでコツコツときずいてゆく點に、この劇團のおそろしい推進力がある。

映画出演も、一部のかぎられた俳優だけが出るのはいけないとなれば、すぐに方針をきりかえる。そして、去年の「破戒」から劇團出演という方向をとつて、たとえば「深夜の告白」などにみるように、俳優座出演に近い形をとるようになつた。

さいきんでは、俳優座のユニット映画を企画しているらしいが、東寶や松竹で撮るとすると、組合の反對があるので、純粋のユニット作品はつくれず、結局二人か三人のスタアを加えて「俳優座多數出演」という映画になるのだろうと、きいている。

俳優座は御殿場を發祥の地としているが、いまでは東山千榮子と村瀬幸子以外は、ほとんど東京に住むようになつた。

それだけ劇團も大きくなり、成長もしたわけである。青山杉作という大先輩が、一時の少女歌劇演出家からまた新劇へ舞いもどつてき、そればかりか映画にも出る情熱をもちだしたあたりに、俳優が俳優に徹するという氣構えが感じられる。すくなくとも、俳優座を支持するひとびとは、その「書生にかえりつつある」俳優座の同人たちを、好意をもつて見守つている。

映画の場合でも、甘えられぬ線の上に立つているのが、この一座のひとびとである。

声

★ジャン・マレエの「双頭の鷲」を一日千秋の思いで待ちこがれて居ります。「美女と野獣」は七回、「悲戀」は五回、「カルメン」は七回、「ルイ・ブラス」は六回。よくまア飽きもせず見續けて來たものだと我ながら感心しています。美貌と云う二字では表現出來ない程彼の男性美は奥深い魅力を持つているようです。彼のドン・ホセは私の胸に終生焼き附くことでしよう。力强く餘韻のあるフランス語、當分このフランス語に惱まされながら私も「ヘンリイ五世」のカトリン姫の様にフランス語を習いはじめました。「双頭の鷲」のストオリイは何度讀み返したことでしよう。うれしさの餘り投書しました。（東京・青地芳子）

★ジューン・アリスンに手紙を出したら素晴しいポートレイトを送つて來たので狂喜しました。僕のクラスではジューン同盟を結成しています。彼女の映画が封切られると同盟の幹事に引率（？）されて大擧して映画館に押しかける始末です。あの甘つたるい聲、やさしい瞳、なごやかな笑顏、僕達はこんな姉が居たらなアと誰云うとなく「シスタア・ジューン」と呼んでいるのです。（神戸・濱野一夫）

★私の從兄はK驛の近くで小さな花屋を開いています。學校がひけるとアルバイトを兼ねてそのお店のお手傳いをするのです。清純な白バラはテレサ・ライトを思わせます。赤のカーネエションはヴイヴイアン・リイ。ジョオン・フオンテインは白のカーネエション。野すみれはジューン・アリスン、でも彼女は濃紫の菫はどうでしよう？「姉妹と水兵」で黒のスーツに菫が良く似合つたのを憶えています。黄色のバラはバーグマンかしら？赤いダリアはヴイヴイアヌ・ロマンス、グリア・ガースンは山百合の香ぐはしさ。ピンクのグラジオラスはコルベエル……と、私のアルバイトは仲々愉しいでしよう？（逗子・ライラック）

★「子鹿物語」のクロード・ジャーマン・ジユニア少年の素直さ。こんな飾らない清らかな少年の演技を見ると、大人の芝居が馬鹿馬鹿しくなつて來る。「愛」の尊さをこんなに美しく自然の中に描いた映画は本當に樂しくなつた。日本でこんな映画がいつになつたら出來るのか。暑くなつて來たのにこのイヤリング熱にうなされている次第。（ジョデイ少年）

★深編笠に面をかくした青白い美しいニヒリスト民谷伊右エ門をロオレンス・オリヴイエと市川海老藏とグレゴリイ・ペツクと上原謙の他に誰も演れやしないと僕も思う。ところが直助權兵衛にからまれ田中絹代に泣きつかれたりすると全然こちらが幽靈みたいに手も足も出なくなつちまう。佐田小平タンでさえ[illegible]に追つかけられても巧く逃げてるし、お岩の死骸を抱いて見事にフラフラと歩いてるのに、伊右エ門ドノとしたことがこの頃あんまりつまらない映画にばかり出るから木下さんにもサジを投げられたかナ。（ル・イエモン）

★　★　★

皆さんの樂しいおしやべりの欄です。葉書にわかりやすくお書き下さい。たゞしむずかしい作品批評は御遠慮ねがいます。あまり長いのはチョン切りますから惡しからず。

宛名　東京都銀座西七の六　スタア社　編集部

映画に演劇に活躍する

俳優座の人たち

長野　勝

左より　楠田薫、青山杉作、東山千榮子、小澤榮、岸輝子、千田是也、村瀬幸子、東野英治郎、

俳優座の出發

日本の新劇は戦争中にほとんどこわされてしまつた。新劇をつぶしたのは、もちろん當時の權力であつた。どうにか生きのびた劇團は、杉村春子や中村伸郎らの文學座だけであつた。

そういうひどい目にあつた人々も、天來の俳優という仕事は、かんたんに投げだせるものではなかつた。自分たちは、俳優以外に、なにも出來る人種ではない。彈壓下だが、なんとかして芝居の勉強はつづけてゆきたい——そういう人々が集つてこしらえたのが俳優座である。

俳優座が生れたのは、一九四四年の二月十日であつた。さいしよは十人の同人制で發足したメムバーは青山杉作、千田是也、東野英治郎、小澤榮、遠藤愼吾、東山千榮子、岸輝子、村瀬幸子、田村秋子、赤木蘭子の十人であつた。いまでは、このなかから、田村秋子と遠藤愼吾が出て、杉山誠や信欣三や永田靖、松本克平というひとびとが加入している。

劇團をこしらえた翌年に、このひとたちは、空襲をさけるために、御殿場へ疎開した。ばかげた戦爭のために死んでしまうのは意味がない。俳優座のひとびとは富士山麓にあつまつて、大砲の音をよそに芝居の勉強をはじめた。それは、たとえ消極的なことではあつたとしても、當時の權力に反抗することであつた。

「御殿場時代に手辨當をさげてはみんなで集つて勉強したつけ…」

その想い出はいまでも俳優座のひとびとを團結させている。思想だの、主義だのとさわがずに、一年生にかえつて、芝居の勉強をしなおそうというのが、俳優座の出發點であつた。

俳優座同人は、ガッチリ腕を組んで、日本映畫發展に大きな役割を果しつつある！

映畫にむく俳優座の人たち

この劇團の同人は、おもしろいことに、そろつて映画にもむく人たちである。まあ強いてのぞけば、岸輝子であろう。あとは最長老の青山杉作をはじめ、千田是也も、「わが戀は燃えぬ」や「深夜の告白」に出ているし、男優では、小澤榮は東野英治郎と組んで、松竹映画などにはずいぶん出た。また女優では、東山千榮子も村瀬幸子も、よく老け役で出ているし、赤木蘭子はついこの間まで、東寶第一組合にいて、ストライキで活躍したりした。それに新人では、楠田薫が「お孃さん乾杯」にでて、詩をよんだ。

古い幹部のひとたちは、むかしから、築地小劇場で、貧乏のどん底を體驗してきた。だから、たとえインフレーションの今日でも、映画にでてもらう出演料は、さいしよ目をむくようなものであつた。いつだつたか、東山千榮子が戦後はじめて映画へ出て、五萬圓とかの出演料をもらつたら

「こんなに戴いていいんでしょうか？」

と言つたということをきいたことがある。話半分としても、あり得ることだ。東山千榮子は巨大漢で、いつかも御殿場の家へかえる途中で怪漢におそわれ、頭を刄物できられたことがあつたが、そんなに强そうにみえる人でも經濟問題になると、幼稚園の子供のように純心なのである。

よく映画へでた小澤や東野にしても、本來ならばもつとサッソウとしそうなものを、じつは出演料の何分の一かを劇團の維持費に提供しているので、思うようにゆかないらしい。現に、俳優座は研究生までまぜると、八十一人の劇團大世帯なので、その維持費は容易でなくなつている。

映画で食つているというのは新劇の場合はその通りで、俳優個人もそうだし、新劇自體もそうだ。いま六本木にできている俳優座の稽古場も、あれは映画の出演料を前借りして作つたものだ。

藝術家の集團である

俳優座の大世帯をがつちりとまとめているのは千田是也である。かれは、舞踊家伊藤道郎や舞臺裝置家伊藤熹朔を兄にもつている。かれの本名はだから伊藤圀夫という。かつてドイツで演劇の勉強をし、表現派の影響をつよく受けた。歸國したときにはドイツ人の奥さんをつれてきたが、戦爭中に別れ、いまは一座の岸輝子と一緒だが、彼女は「あなた」と呼ばないで、「圀ちやん」とよんでいる。

夫妻者といえば、この一座には赤木蘭子と信欣三という夫婦もい

久我 美子

新東宝作品

不朽の傑作遂に誕生！

冬芽書房版

忘れられた子等

巨匠稲垣浩監督

笠智衆
堀雄二
小雀劇団
ともだち劇場
手をつなぐ子等グループ
原作田村一二

異常児童の心理を追求する一大詩篇！
大人の胸にも子供の胸にも温い灯をともす！！

世界を驚倒させたイタリー映画

PAISAN

戰火のかなた

監督ロベルト・ロッセリイニ
1948年ブラッセル国際映画賞
ニウ・ヨオク映画批評家賞
ナシヨナル・ボード・オブ・レヴユウ最高賞

公開迫る！

東宝

提供
イタリア・フイルム有限会社
配給
東宝株式会社

エクセルザ社 1948年度作品

"Star" Published Monthly by The Star Publications, 6, 7- chome, Ginza-nishi, Central District, Tokyo, Japan.

Star

SEPT.★1949

昭和21年12月12日第3種郵便物認可★昭和24年3月28日運輸省特別扱認雑誌第366号★昭和24年9月1日発行★第4巻第6号★昭和24年8月25日印刷★毎月[illegible]回発行

水戸光子

特價 六十円（〒三円）